



Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.4

スタートガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 向け

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.4 スタートガイド

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 向け

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Getting_Started_Guide.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、JBoss EAP 6 を使い始めるための基本的なステップを解説しています。

目次

第1章 はじめに	4
1.1. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6	4
1.2. RED HAT カスタマーポータル	4
1.3. RED HAT JBOSS DEVELOPER PROGRAM について	4
1.4. FULL RED HAT JBOSS COMMERCIAL PROGRAM について	4
1.5. 詳細情報を見つける方法	5
第2章 前提条件	6
2.1. JBOSS EAP 6 のインストールの前提条件	6
第3章 製品をダウンロードしてインストールする	7
3.1. JBOSS EAP のインストールの概要	7
3.2. グラフィカルなインストールプログラムを使用した JBOSS EAP のダウンロードとインストール	7
3.2.1. JBoss EAP 6 インストールプログラムをダウンロードする	7
3.2.2. JBoss EAP インストールプログラムを実行します	8
3.3. ZIP を使用して JBOSS EAP をダウンロードしてインストールする	10
3.3.1. JBoss EAP 6 のダウンロード (ZIP インストール)	10
3.3.2. JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)	11
3.4. クイックスタートコード例をダウンロードする	12
3.4.1. クイックスタートのダウンロード	12
第4章 インストール後の手順	14
4.1. 開発環境のセットアップ	14
4.1.1. Red Hat JBoss Developer Studio のインストールの概要	14
4.1.2. Red Hat JBoss Developer Studio のダウンロード	14
4.1.3. Install Red Hat JBoss Developer Studio	14
4.1.4. Red Hat JBoss Developer Studio の起動	15
4.1.5. Define New Server を使用して JBossEAP サーバーを追加します	15
4.2. MAVEN を設定する	21
4.2.1. Maven	21
4.2.2. Maven 設定を設定する	21
4.2.3. Maven for Red Hat JBoss Developer Studio の設定	22
4.2.3.1. Red Hat JBoss Developer Studio で使用するための Maven の設定	22
4.2.4. コマンドライン用に Maven を設定する	25
4.2.4.1. Maven のダウンロードおよびインストール	25
4.2.4.2. コマンドラインで使用するための Maven の設定	26
第5章 やってみよう	31
5.1. クイックスタートを実行する	31
5.1.1. Red Hat JBoss Developer Studio でクイックスタートを実行します	31
5.1.2. コマンドラインを使用してクイックスタートを実行する	38
付録A インストールプログラムのスクリーンショット	39
A.1. 言語の選択	39
A.2. 使用許諾契約書	39
A.3. インストールパス	40
A.4. インストールするパックを選択します	41
A.5. 管理ユーザーの作成	42
A.6. クイックスタートインストール	43
A.7. MAVEN リポジトリのセットアップ	44
A.8. ソケットバインディングのセットアップ	45
A.9. サーバーの起動	46

A.10. ログインレベルの設定	47
A.11. ランタイム環境の設定	48
A.12. インストールコンポーネントを確認する	49
A.13. インストールの進捗	50
A.14. インストール処理が完了しました	51
A.15. ショートカットを作成する	52
A.16. インストールスクリプトを生成する	53
付録B 改訂履歴	55

第1章 はじめに

1.1. RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM 6

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 (JBoss EAP 6) は、オープン標準に構築されたミドルウェアプラットフォームで、Java Enterprise Edition 6 仕様に準拠します。これは、JBoss Application Server 7 を高可用性クラスターリング、メッセージング、分散キャッシング、およびその他のテクノロジーと統合します。

JBoss EAP 6 には、必要な場合にだけサービスを有効にできる新しいモジュール構造が含まれます (サービスの起動時間が短縮されます)。

管理コンソールと管理コマンドラインインターフェースにより、XML 設定ファイルの編集が不要になり、タスクをスクリプト化および自動化する機能が追加されました。

また、JBoss EAP 6 には、セキュアでスケーラブルな Java EE アプリケーションの迅速な開発を可能にする API と開発フレームワークが含まれます。

バグの報告

1.2. RED HAT カスタマーポータル

Red Hat カスタマーポータルは、Red Hat のナレッジリソースやサブスクリプションリソースを管理する集中プラットフォームです。Red Hat カスタマーポータルでは、以下を行うことができます。

- Red Hat エンタイトルメントやサポート契約の管理および維持。
- 正式サポートされたソフトウェアのダウンロード。
- 製品ドキュメントや Red Hat ナレッジベースの利用。
- グローバルサポートサービスへの連絡。
- Red Hat 製品のバグの登録。

カスタマーポータルはこちらからご利用いただけます。 <https://access.redhat.com>。

バグの報告

1.3. RED HAT JBOSS DEVELOPER PROGRAM について

『Red Hat JBoss Developer Program』 (プログラム) を使用すると、開発目的で特定の Red Hat サブスクリプションを無料でデプロイできます。このプログラムで提供される Red Hat サブスクリプションはサポートされておらず、既知のセキュリティーの脆弱性に対処していない可能性があります。これらは開発目的でのみ使用でき、実稼働環境での使用や、アクティブな Red Hat サブスクリプションなしで更新にアクセスするなどの他の目的を目的としたものではありません。Red Hat JBoss Developer Program の詳細は、 <http://www.jboss.org/developer-program/termsandconditions> を参照してください。。

バグの報告

1.4. FULL RED HAT JBOSS COMMERCIAL PROGRAM について

『Full Red Hat JBoss Commercial Program』 を使用すると、実稼働環境にデプロイできます。ソフト

ウェアの更新とパッチ、サポートサービス、および Red Hat ナレッジベースへのアクセスに対する追加のエンタイトルメントを提供します。プログラムに参加するには、カスタマーポータル (<https://access.redhat.com/>) でアカウントを作成する必要があります。このプログラムの詳細は、「[Red Hat カスタマーポータル](#)」を参照してください。。

[バグの報告](#)

1.5. 詳細情報を見つける方法

このガイドの目的は、Red Hat JBoss Enterprise Application Platform をできるだけ早く使用できるようにすることです。詳細は、JBoss EAP の完全なドキュメントスイートをカスタマーポータル (https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_jboss_enterprise_application_platform/?version=6.4) でご利用いただけます。

[バグの報告](#)

第2章 前提条件

2.1. JBOSS EAP 6 のインストールの前提条件

概要

JBoss EAP は、『Red Hat JBoss Developer Program』または『Full Red Hat JBoss Commercial Program』で利用できます。『Red Hat JBoss Developer Program』の詳細は、「[Red Hat JBoss Developer Program について](#)」を参照してください。『Full Red Hat JBoss Commercial Program』の詳細は、「[Full Red Hat JBoss Commercial Program について](#)」を参照してください。次の手順では、両方のプログラムの前提条件について説明します。

一般的な要件

- サポートされている設定を確認し、システムがサポートされていることを確認します。<https://access.redhat.com/articles/111663>。
- Red Hat カスタマーポータルでアカウントを設定し、『Full Red Hat JBoss Commercial Program』に参加している場合は、システムが Red Hat 発行の更新とエラータで最新であることを確認してください。

ZIP またはインストーラーの要件

- インストールディレクトリーの管理者権限を付与する必要があります。
- 選択した Java development kit が展開 (またはインストール) されていることを確認します。これを行う方法については、Java development kit のドキュメントを参照してください。
- Microsoft Windows Server では、JAVA_HOME および PATH 環境変数が設定されている必要があります。設定されていないと、ショートカットが動作しません。
- Hewlett-Packard HP-UX で、**unzip** ユーティリティーがインストールされていることを確認します。

[バグの報告](#)

第3章 製品をダウンロードしてインストールする

3.1. JBOSS EAP のインストールの概要

このガイドでは、JBoss EAP の使用をできるだけ早く開始するための最も簡単なインストールプロセスについて説明します。完全なインストール手順は、JBoss EAP の『Installation Guide』に記載されています。JBoss EAP をインストールした後、Management CLI または Management Console を使用してサーバーを設定できます。JBoss EAP を設定する方法は、JBoss EAP の『Administration and Configuration Guide』を参照してください。両方のガイドは、カスタマーポータルhttps://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_jboss_enterprise_application_platform/?version=6.4にあります。

JBoss EAP は、次のいずれかの方法でインストールできます。

- グラフィカルなインストールプログラムを使用して JBoss EAP をインストールできます。
- ZIP ファイルを使用して JBoss EAP をインストールできます。

ご希望のインストール方法に基づいた指示に従ってください。

バグの報告

3.2. グラフィカルなインストールプログラムを使用した JBOSS EAP のダウンロードとインストール

3.2.1. JBoss EAP 6 インストールプログラムをダウンロードする

概要

JBoss EAP は、『Red Hat JBoss Developer Program』または『Full Red Hat JBoss Commercial Program』で利用できます。選択したプログラムに一致する以下の手順に従ってください。

手順3.1 Full Red Hat JBoss Commercial Program の下でカスタマーポータルから JBossEAP インストールプログラムをダウンロードする

Full Red Hat JBoss Commercial Program に参加している場合は、この手順に従ってください。このプログラムの詳細は、『[Full Red Hat JBoss Commercial Program について](#)』を参照してください。

1. ブラウザーを開き、<https://access.redhat.com> のカスタマーポータルにログインします。
2. **Downloads** をクリックします。
3. **Product Downloads** リストの **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform** をクリックします。
4. **Version** ドロップダウンメニューから正しい JBoss EAP バージョンを選択します。
5. リストから **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.x.x** インストーラーを見つけ、**Download** オプションをクリックします。
6. JAR ファイルを選択したディレクトリーに保存するように求められます。ディレクトリーを選択してファイルを保存します。

手順3.2 Red Hat JBoss Developer Program の下で jboss.org から JBoss EAP インストールプログラムをダウンロードします

Red Hat JBoss Developer Program に参加している場合は、この手順に従ってください。このプログラムの詳細は、「[Red Hat JBoss Developer Program について](#)」を参照してください。

1. ブラウザーを開き、次の URL にアクセスします。 <http://www.jboss.org/products/eap>。
 - 製品の現在の GA 出荷バージョンのインストールプログラムをダウンロードするには、ページの右側にある **Download** ボタンをクリックします。
 - 次の手順に従って、最新のアルファ版またはベータ版のリリース、および製品の以前のバージョンを含む代替バージョンを選択してください。
 - a. ページの左側にある **Download JBoss EAP** リンクをクリックします。
 - b. 正しい製品バージョンについては、**Download** 列の下にある **Installer** リンクをクリックしてください。
2. JAR ファイルを選択したディレクトリーに保存するように求められます。ディレクトリーを選択してファイルを保存します。

結果

JBoss EAP 6 インストールプログラムの JAR ファイルがターゲットマシンに正常にダウンロードされました。

バグの報告

3.2.2. JBoss EAP インストールプログラムを実行します

JBoss EAP インストールプログラムは、グラフィカルモードまたはテキストモードで実行できます。このトピックでは、インストールプログラムをグラフィカルモードで実行するコマンドについて説明します。

オプションがわからない場合は、デフォルトを使用してください。後でサーバーを簡単に設定できます。JBoss EAP サーバーの設定方法の詳細については、カスタマーポータルにある Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6 の『Administration and Configuration Guide』を参照してください。 https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_jboss_enterprise_application_platform/?version=6.4。

手順3.3 JBoss EAP インストールプログラムを実行します

1. ターミナルを開き、ダウンロードしたインストールプログラムの JAR を含むディレクトリーに移動します。
2. 以下のコマンドを入力します。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar
```



注記

Hewlett-Packard HP-UX または Solaris 環境では、-d32/-d64 スイッチを使用して必要なアーキテクチャーを指定できます。以下のいずれかのコマンドを実行してインストーラーを起動します。

```
java -jar -d64 jboss-eap-6.x.x-installer.jar
```

または

```
java -jar -d32 jboss-eap-6.x.x-installer.jar
```

3. 以下の表の手順を実行します。

表3.1 JBoss EAP インストールプログラム画面

画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
「言語の選択」	Always	インストールプログラムに必要な言語を選択し、 OK をクリックします。
「使用許諾契約書」	Always	RED HAT JBOSS MIDDLEWARE のエンドユーザーライセンス契約。 I accept the terms of this license agreement を選択し、 Next をクリックします。
「インストールパス」	Always	JBoss EAP のインストールパスを選択し、 Next をクリックします。新しいディレクトリーを作成するか、存在する場合は名前付きディレクトリーを置き換えるように求められます。
「インストールするパックを選択します」	Always	インストールするパックを選択します。必要なパックは選択解除のために無効になっています。
「管理ユーザーの作成」	Always	管理ユーザーを作成し、パスワードを割り当てます。 次へ をクリックします。
「クイックスタートインストール」	Always	クイックスタートの例をインストールします。 Yes を選択し、インストールパスを選択します。 次へ をクリックします。
「Maven リポジトリーのセットアップ」	クイックスタートの例をインストールすることを選択した場合	デフォルトの選択を維持して、デフォルトの Maven 設定を自動的に設定し、パブリックにホストされている Maven リポジトリーを使用します。 次へ をクリックします。
「ソケットバインディングのセットアップ」	Always	デフォルトのポートバインディングを保持し、 Next をクリックします。
「サーバーの起動」	Always	インストールプロセスの完了時に、優先するスタートアップオプションを選択します。 次へ をクリックします。

画面の名前	どのような場合に表示されるか	説明
「ロギングレベルの設定」	Always	ロギングレベルの設定をスキップするには、 No を選択します。 次へ をクリックします。
「ランタイム環境の設定」	Always	Perform default configuration を選択し、 Next をクリックして続行します。
「インストールコンポーネントを確認する」	Always	選択内容を確認して、 Next をクリックします。
「インストールの進捗」	Always	インストールの進行が完了したら、 Next をクリックします。
「インストール処理が完了しました」	Always	処理が終了したら、 Next をクリックします。
「ショートカットを作成する」	Always	デフォルトを受け入れて、 Next をクリックします。
「インストールスクリプトを生成する」	Always	完了 をクリックします。 インストールが完了しました。

手順3.4 テキストベースのインストールプロセス

1. ターミナルを開き、ダウンロードしたインストールプログラムの JAR を含むディレクトリーに移動します。
2. 次のコマンドを実行して、テキストベースのインストーラーを起動します。

```
java -jar jboss-eap-6.x.x-installer.jar -console
```

3. 手順に従って JBoss EAP 6 をインストールします。

結果

インストールが完了し、JBoss EAP 6 がターゲットマシンにインストールされます。

バグの報告

3.3. ZIP を使用して JBOSS EAP をダウンロードしてインストールする

3.3.1. JBoss EAP 6 のダウンロード (ZIP インストール)

概要

JBoss EAP は、『Red Hat JBoss Developer Program』または『Full Red Hat JBoss Commercial Program』で利用できます。選択したプログラムに一致する以下の手順に従ってください。

手順3.5 Full Red Hat JBoss Commercial Program のカスタマーポータルから ZIP ファイルをダウンロードします

Full Red Hat JBoss Commercial Program に参加している場合は、この手順に従ってください。このプログラムの詳細は、「[Full Red Hat JBoss Commercial Program について](#)」を参照してください。

1. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータル (<https://access.redhat.com>) にログインします。
2. **Downloads** をクリックします。
3. **Product Downloads** リストの **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform** をクリックします。
4. **Version** ドロップダウンメニューから正しい JBoss EAP バージョンを選択します。
5. リストから **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.x.x** を見つけ、**Download** オプションをクリックします。
6. 選択したディレクトリーに ZIP ファイルを保存するように求められます。ディレクトリーを選択してファイルを保存します。

手順3.6 Red Hat JBoss Developer Program の下で jboss.org から ZIP ファイルをダウンロードします

Red Hat JBoss Developer Program に参加している場合は、この手順に従ってください。このプログラムの詳細は、「[Red Hat JBoss Developer Program について](#)」を参照してください。

1. Web ブラウザーを開き、次の URL にアクセスします。 <http://www.jboss.org/products/eap/>
2. ページの左側にある **Download JBoss EAP** リンクをクリックします。
3. 正しい製品バージョンについては、**Download** 列の下にある **ZIP** リンクをクリックしてください。
4. 選択したディレクトリーに ZIP ファイルを保存するように求められます。ディレクトリーを選択してファイルを保存します。

結果

JBoss EAP 6 ZIP ファイルがターゲットマシンに正常にダウンロードされました。

バグの報告

3.3.2. JBoss EAP 6 をインストールします (ZIP インストール)

概要

このトピックでは、ダウンロードした ZIP ファイルを使用して JBoss EAP 6 をインストールする手順について説明します。

手順3.7 ZIP ファイルのインストール

1. **ZIP アーカイブを目的の場所に移動します。**
ZIP ファイルを JBoss EAP 6 をインストールする予定のサーバーとディレクトリーに移動します。サーバーを起動および停止するユーザーは、このディレクトリーへの読み取りおよび書き込みアクセス権を持っている必要があります。

2. 適切なアプリケーションを使用して、ZIP アーカイブを目的の場所に展開します。

Red Hat Enterprise Linux 環境では、**unzip** ユーティリティを使用して ZIP アーカイブのコンテンツを展開します。

Microsoft Windows 環境では、ファイルを右クリックして **Extract All** を選択します。

Hewlett-Packard HP-UX 環境では、**unzip** ユーティリティを使用して ZIP アーカイブのコンテンツを展開します。

結果

JBoss EAP 6 の正常なインストールの完了 ZIP アーカイブを展開して作成されたディレクトリは、サーバーの最上位ディレクトリです。このディレクトリを **EAP_HOME** と呼びます。

バグの報告

3.4. クイックスタートコード例をダウンロードする

3.4.1. クイックスタートのダウンロード

概要

JBoss EAP 6 には、ユーザーが Java EE 6 テクノロジーを使用してアプリケーションの作成を開始できるように設計されたクイックスタートコード例の包括的なセットが付属しています。

JBoss EAP のインストール時にクイックスタートの例をインストールすることを選択した場合は、このトピックをスキップできます。それ以外の場合は、『Red Hat JBoss Developer Program』または『Full Red Hat JBoss Commercial Program』で今すぐダウンロードできます。選択したプログラムに一致する以下の手順に従ってください。

手順3.8 Full Red Hat JBoss Commercial Program の下でクイックスタートをダウンロードする

Full Red Hat JBoss Commercial Program に参加している場合は、この手順に従ってください。このプログラムの詳細は、「[Full Red Hat JBoss Commercial Program について](#)」を参照してください。

1. ブラウザーを開き、Red Hat カスタマーポータル (<https://access.redhat.com>) にログインします。
2. **Downloads** をクリックします。
3. **Product Downloads** リストの **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform** をクリックします。
4. **Version** ドロップダウンメニューから正しい JBoss EAP バージョンを選択します。
5. リストの中から **Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.x.x Quickstarts** を探し、**Download** オプションをクリックします。
6. Zip ファイルを選択したディレクトリに保存するように求められます。ディレクトリを選択してファイルを保存します。
7. 選択したディレクトリでアーカイブを解凍します。

手順3.9 Red Hat JBoss Developer Program で Quickstarts をダウンロードします

Red Hat JBoss Developer Program に参加している場合は、この手順に従ってください。このプログラムの詳細は、「[Red Hat JBoss Developer Program について](#)」を参照してください。

1. Web ブラウザーを開き、次の URL にアクセスします。 <http://www.jboss.org/products/eap/>
2. ページの左側にある **Download JBoss EAP** リンクをクリックして、製品のダウンロード情報を表示します。
3. **Download JBoss EAP** で、**Quickstarts** リンクをクリックして、例を含む Zip アーカイブをダウンロードします。
4. 選択したディレクトリーに ZIP ファイルを保存するように求められます。ディレクトリーを選択してファイルを保存します。
5. 選択したディレクトリーでアーカイブを解凍します。

バグの報告

第4章 インストール後の手順

4.1. 開発環境のセットアップ

4.1.1. Red Hat JBoss Developer Studio のインストールの概要

このガイドでは、Red Hat JBoss Developer Studio の最も簡単なインストールパスについて説明します。完全なインストール手順については、『Install Red Hat JBoss Developer Studio』ガイド (https://access.redhat.com/documentation/ja-JP/Red_Hat_JBoss_Developer_Studio/) を参照してください。

[バグの報告](#)

4.1.2. Red Hat JBoss Developer Studio のダウンロード

1. <https://www.jboss.org/products/devstudio.html> にアクセスします。
2. **Download** ボタンをクリックします。選択したディレクトリーに ZIP ファイルを保存するように求められます。

[バグの報告](#)

4.1.3. Install Red Hat JBoss Developer Studio

1. ターミナルを開き、ダウンロードした **.jar** ファイルを含むディレクトリーに移動します。
2. 次のコマンドを実行して、GUI インストールプログラムを起動します。

```
java -jar jboss-devstudio-build_version-installer-eap.jar
```



注記

または、**.jar** ファイルをダブルクリックしてインストールプログラムを起動できる場合もあります。

3. **Next** をクリックして、インストールプロセスを開始します。
4. **I accept the terms of this license agreement** を選択し、**Next** をクリックします。
5. インストールパスを調整し、**Next** をクリックします。



注記

インストールパスフォルダーが存在しない場合は、プロンプトが表示されません。**OK** をクリックしてフォルダーを作成します。

6. JVM を選択するか、デフォルトの JVM を選択したままにして、**Next** をクリックします。
7. Red Hat JBoss Developer Studio には、Red Hat JBoss Enterprise Application Platform が含まれています。以前にインストールされている場合は、**No** を選択します。それ以外の場合は、**Yes** を選択してインストールし、Red Hat JBoss Developer Studio で使用できるように設定します。

8. インストールの詳細を確認し、**Next** をクリックします。
9. インストールプロセスが完了したら、**Next** をクリックします。
10. Red Hat JBoss Developer Studio のデスクトップショートカットを設定し、**Next** をクリックします。
11. **完了** をクリックします。

バグの報告

4.1.4. Red Hat JBoss Developer Studio の起動

Red Hat JBoss Developer Studio を起動するには、インストール中に作成されたデスクトップショートカットをダブルクリックするか、コマンドラインで起動できます。このトピックでは、コマンドラインを使用して Red Hat JBoss Developer Studio を起動する方法について説明します。

手順4.1 Red Hat JBoss Developer Studio を起動するコマンド

1. ターミナルを開き、Red Hat JBoss Developer Studio のインストールディレクトリーに移動します。
2. 次のコマンドを実行して、Red Hat JBoss Developer Studio を起動します。

Linux の場合

```
[localhost]$ ./jbdevstudio
```

Microsoft Windows の場合

```
C:\JBDS_INSTALL_DIRECTORY > jbdevstudio.bat
```

バグの報告

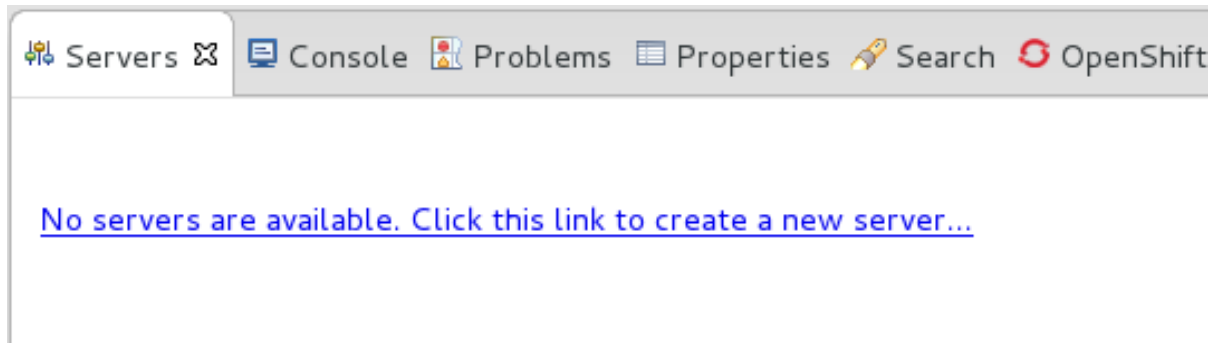
4.1.5. Define New Server を使用して JBossEAP サーバーを追加します

これらの手順は、これが Red Hat JBoss Developer Studio の最初の紹介であり、Red Hat JBoss Enterprise Application Platform サーバーをまだ追加していないことを前提としています。以下の手順では、**Define New Server** ウィザードを使用して、JBoss EAP サーバーを追加します。

手順4.2 サーバーを追加します

1. **Servers** タブを開きます。**Servers** タブがない場合は、次のようにパネルに追加します。
 - a. **Window** → **Show View** → **Other...** をクリックします。
 - b. **Server** フォルダーから **Servers** を選択し、**OK** をクリックします。
2. 以下をクリックします、**No servers are available**。このリンクをクリックして、新しいサーバーを作成します。または、必要に応じて、空白のサーバーパネル内を右クリックし、**New** → **Server** を選択します。

図4.1 新しいサーバーを追加する - No servers available



[D]

3. **JBoss Enterprise Middleware** を展開し、**JBoss Enterprise Application Platform 6.1+** を選択します。JBoss Enterprise Application Platform 6.4 などのサーバー名を入力し、**Next** をクリックして JBoss ランタイムを作成し、サーバーを定義します。次回新しいサーバーを定義するとき、このダイアログには、新しいランタイム定義を含む **Server runtime environment** の選択が表示されます。

図4.2 新しいサーバーを定義する

New Server

Define a New Server

Choose the type of server to create

[Download additional server adapters](#)

Select the server type:

type filter text

Red Hat JBoss Middleware

- JBoss Enterprise Application Platform 4.3
- JBoss Enterprise Application Platform 5.x
- JBoss Enterprise Application Platform 6.0
- JBoss Enterprise Application Platform 6.1+**

JBoss Enterprise Application Platform (EAP) 6.1+

Server's host name: localhost

Server name: JBoss Enterprise Application Platform 6.4

? < Back Next > Cancel Finish

[D]

4. サーバーの起動と停止を管理するサーバーアダプターを作成します。デフォルトのままにして、**Next** をクリックします。

図4.3 新しいサーバーアダプターを作成する

New Server

Create a new Server Adapter

JBoss Enterprise Application Platform (EAP) 6.1+

A Server Adapter manages starting and stopping instances of your server. It manages command line arguments and keeps track of which modules have been deployed.

The server is: Local
 Remote

Controlled by: Filesystem and shell operations
 Management Operations

The selected profile requires a runtime.

Assign a runtime to this server

Create new runtime (next page) ▾

Runtime Details

JRE:
Home Directory:
Base Directory:
Configuration File:


? < Back Next > Cancel Finish

[D]

- JBoss EAP 6.4 Runtime などの名前を入力します。**Home Directory** で、**Browse** をクリックして、JBoss EAP のインストール場所に移動します。**Next** をクリックします。

図4.4 新しいサーバーランタイム環境を追加する

New Server

JBoss Runtime 

JBoss Enterprise Application Platform (EAP) 6.1+

A JBoss Server runtime references a JBoss installation directory.
It can be used to set up classpaths for projects which depend on this runtime,
as well as by a "server" which will be able to start and stop instances of JBoss.

Name
JBoss EAP 6.4 Runtime

Home Directory [Download and install runtime...](#)
/home/username/tools/jboss-eap-6.4 Browse...

Runtime JRE
 Execution Environment: JavaSE-1.6 Environments...
 Alternate JRE: jdk1.7.0_71 Installed JREs...

Configuration base directory: standalone Browse...

Configuration file: standalone.xml Browse...

? < Back Next > Cancel Finish

[D]

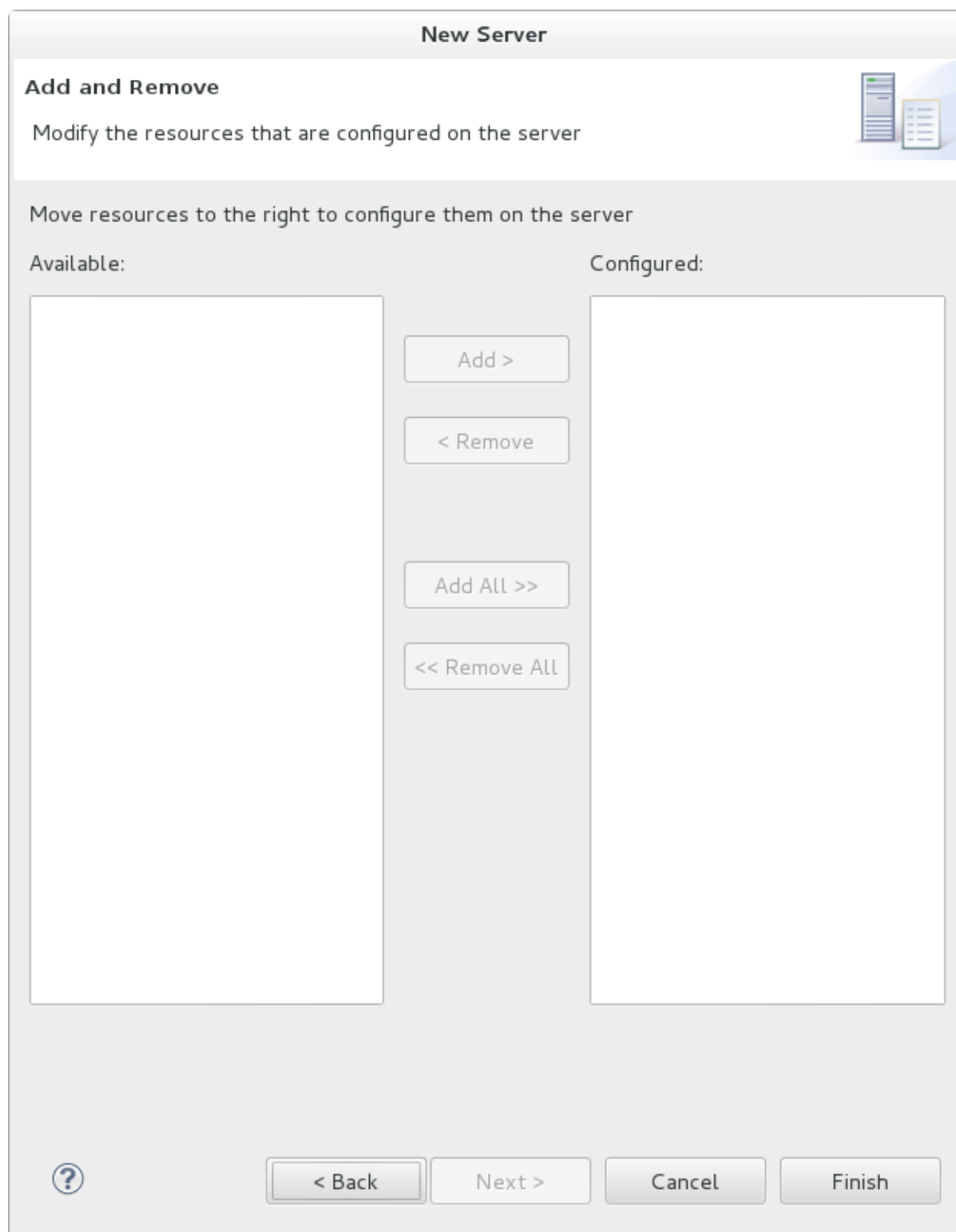


注記

一部のクイックスタートでは、別のプロファイルまたは追加の引数を使用してサーバーを実行する必要があります。**full** プロファイルを必要とするクイックスタートをデプロイするには、新しいサーバーを定義し、**Configuration file** に **standalone-full.xml** を指定する **Server Runtime Environment** を追加する必要があります。新しいサーバーにはわかりやすい名前を付けてください。

6. 新しいサーバー用に既存のプロジェクトを設定します。この時点ではプロジェクトがないため、**Finish** をクリックします。

図4.5 新しい JBoss サーバーのリソースを変更します

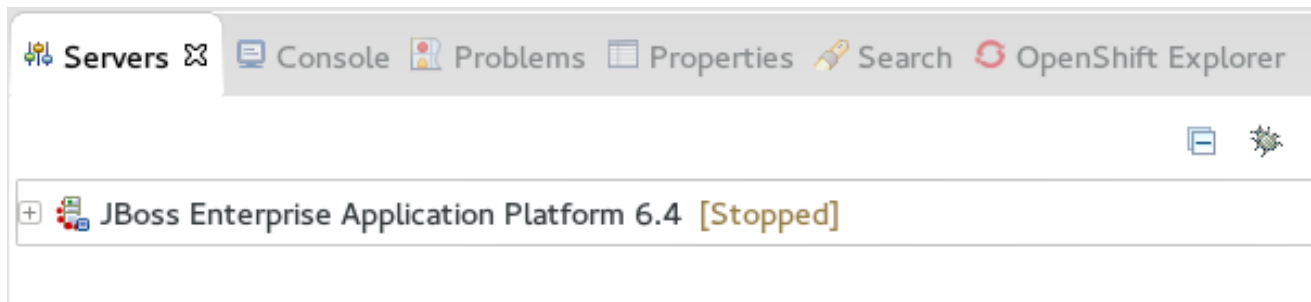


[D]

結果

JBoss EAP Runtime Server が **Servers** タブに一覧表示されます。

図4.6 サーバーがサーバーリストに表示されます



[D]

バグの報告

4.2. MAVEN を設定する

4.2.1. Maven

Apache Maven は分散型構築自動化ツールで、ソフトウェアプロジェクトの作成、ビルド、および管理を行うために Java アプリケーション開発で使用されます。Maven は Project Object Model (POM) と呼ばれる標準の設定ファイルを利用して、プロジェクトの定義や構築プロセスの管理を行います。POM はモジュールやコンポーネントの依存関係、ビルドの順番、結果となるプロジェクトパッケージングのターゲットを記述し、XML ファイルを使用して出力します。こうすることで、プロジェクトが正しく統一された状態で構築されるようにします。

Maven は、リポジトリを使用してアーカイブを行います。Maven リポジトリには Java ライブラリー、プラグイン、およびその他のビルドアーティファクトが格納されています。デフォルトのパブリックリポジトリは [Maven 2 Central Repository](#) ですが、複数の開発チームの間で共通のアーティファクトを共有する目的で、社内のプライベートおよび内部リポジトリとすることが可能です。また、サードパーティーのリポジトリも利用できます。JBoss EAP には、Java EE 開発者が JBoss EAP でアプリケーションをビルドする際に使用する要件の多くが含まれる Maven リポジトリが含まれます。

Maven に関する詳細は、[Welcome to Apache Maven](#) を参照してください。

Maven リポジトリに関する詳細は、[Apache Maven Project - Introduction to Repositories](#) を参照してください。

JBoss EAP で Maven を使用方法の詳細は、カスタマーポータルにある Red Hat JBoss Enterprise Application Platform の『Development Guide』の『Maven Guide』というタイトルの章を参照してください。https://access.redhat.com/documentation/ja-jp/red_hat_jboss_enterprise_application_platform/?version=6.4。

バグの報告

4.2.2. Maven 設定を設定する

アプリケーションをビルドし、JBoss EAP 6 にデプロイするのに必要なアーティファクトと依存関係はパブリックリポジトリでホストされます。アプリケーションをビルドするときにこのリポジトリを使用するよう Maven を設定する必要があります。これを行う方法は、Red Hat JBossDeveloperStudio または Maven コマンドラインを使用してアプリケーションをビルドおよびデプロイする予定があるかどうかによって異なります。

Red Hat Developer Studio には Maven が含まれるため、個別にダウンロードおよびインストールする

必要はありません。Red Hat JBoss Developer Studio を使用してアプリケーションをビルドおよびデプロイする場合は、以下の手順を使用して Maven 設定を設定します。 [「Red Hat JBoss Developer Studio で使用するための Maven の設定」](#)

Maven コマンドラインを使用してアプリケーションをビルドおよびデプロイする場合は、最初に次の手順を使用して Maven をダウンロードしてインストールする必要があります。 [「Maven のダウンロードおよびインストール」](#)。次に、以下の手順に従って Maven 設定を設定します。 [「コマンドラインで使用するための Maven の設定」](#)

[バグの報告](#)

4.2.3. Maven for Red Hat JBoss Developer Studio の設定

4.2.3.1. Red Hat JBoss Developer Studio で使用するための Maven の設定

アプリケーションをビルドし、Red Hat JBoss Enterprise Application Platform にデプロイするのに必要なアーティファクトと依存関係は、パブリックリポジトリでホストされます。アプリケーションをビルドするときこのリポジトリを使用するよう Maven を設定する必要があります。このトピックでは、Red Hat JBoss Developer Studio を使用してアプリケーションをビルドおよびデプロイする場合に Maven を設定する手順について説明します。

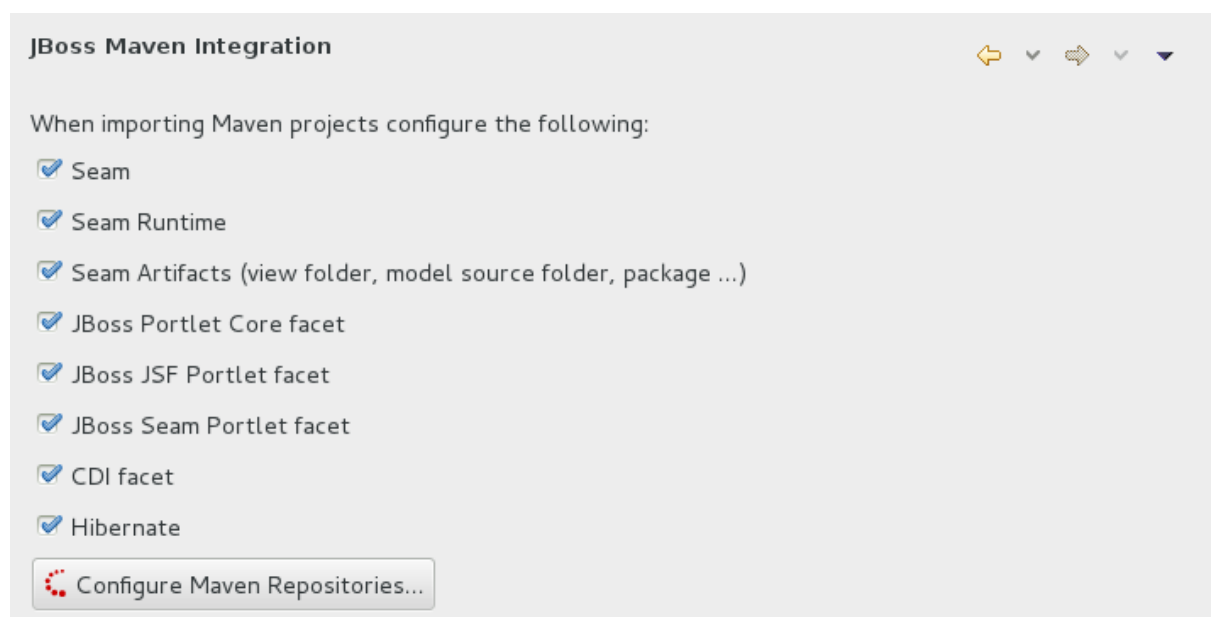
Maven コマンドラインを使用してアプリケーションをビルドおよびデプロイする場合は、このトピックをスキップできます。代わりに、次の手順に従ってください。 [「コマンドラインで使用するための Maven の設定」](#)。

Maven は Red Hat Developer Studio で配布されるため、個別にインストールする必要はありません。ただし、JBoss EAP へのデプロイメントのために Java EE Web Project ウィザードで使用する Maven を設定する必要があります。以下の手順は、Red Hat JBoss Developer Studio 内から Maven 設定ファイルを編集して、JBoss EAP で使用するために Maven を設定する方法を示しています。

手順4.3 Red Hat JBoss Developer Studio で Maven を設定する

1. **Window** → **Preferences** の順にクリックし、**JBoss Tools** を展開して **JBoss Maven Integration** を選択します。

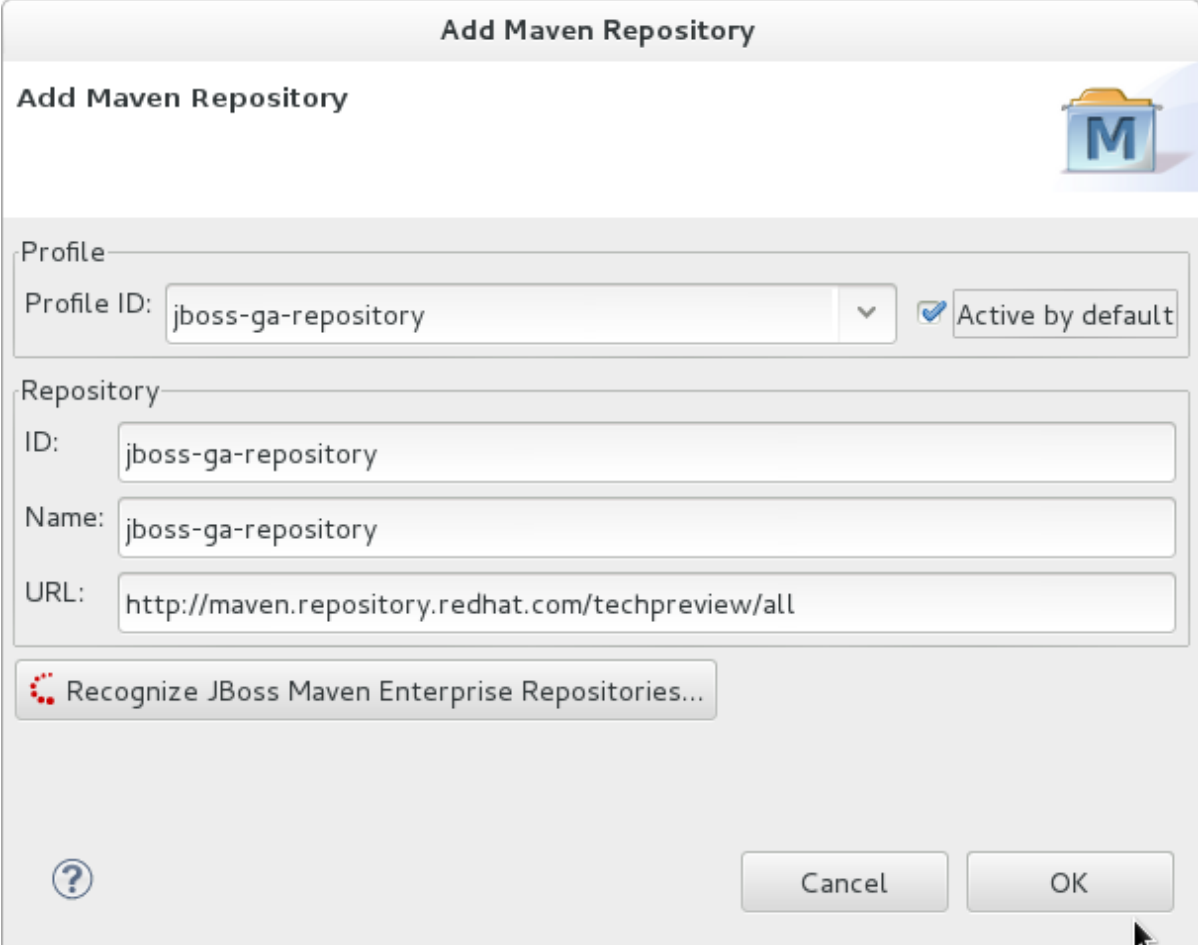
図4.7 Preferences ウィンドウの JBoss Maven 統合ペイン



2. **Configure Maven Repositories** をクリックします。

3. **Add Repository** をクリックして、JBoss GA Tech Preview Maven リポジトリを設定します。**Add Maven Repository** ダイアログで以下の手順を実行します。
 - a. **Profile ID**、**Repository ID**、および **Repository Name** の値を **jboss-ga-repository** に設定します。
 - b. **Repository URL** 値を **http://maven.repository.redhat.com/techpreview/all** に設定します。
 - c. **Active by default** チェックボックスをクリックして Maven リポジトリを有効にします。
 - d. **OK** をクリックします。

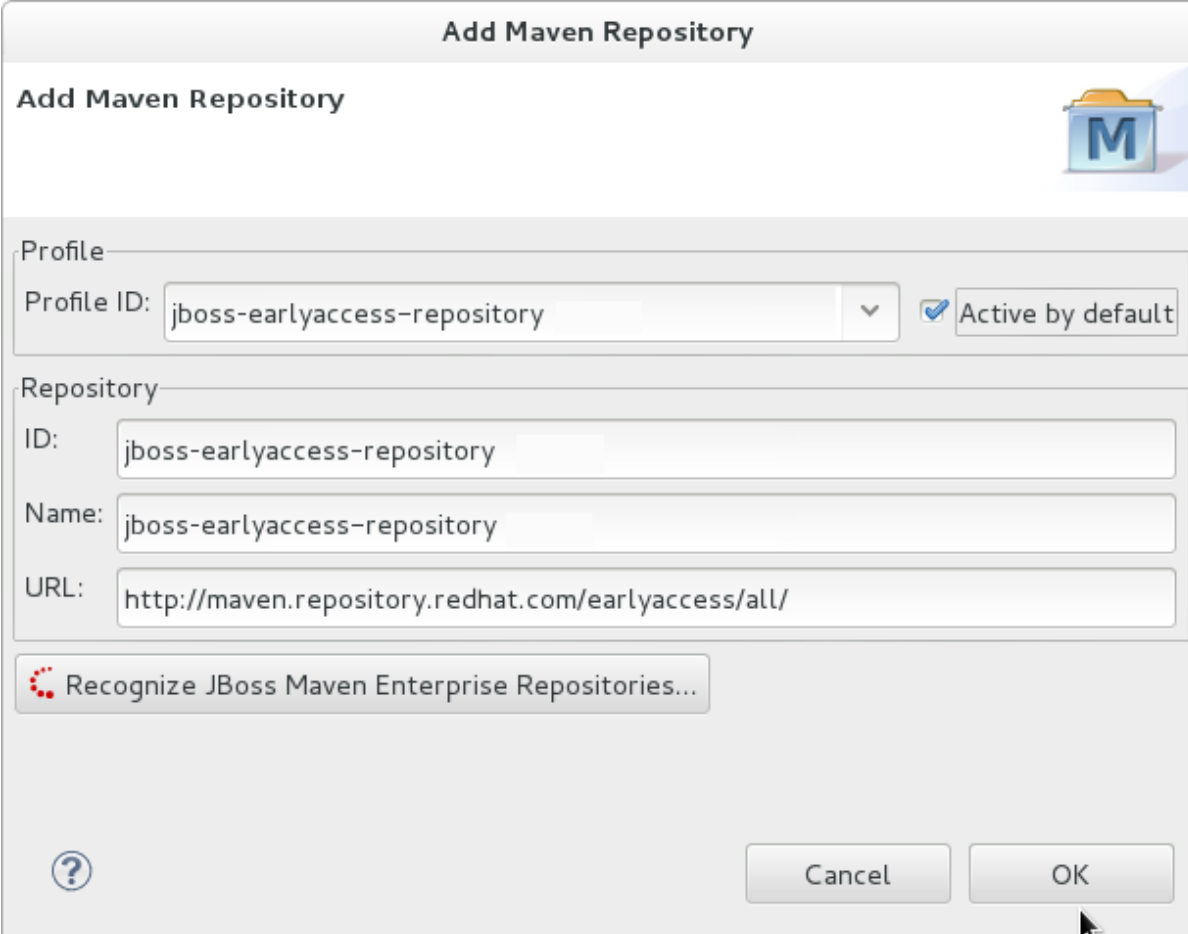
図4.8 Maven リポジトリの追加 -JBoss Tech Preview



The screenshot shows the 'Add Maven Repository' dialog box. The title bar and sub-header both read 'Add Maven Repository'. A blue icon with a white 'M' is in the top right. The 'Profile' section has a 'Profile ID' dropdown set to 'jboss-ga-repository' and a checked 'Active by default' checkbox. The 'Repository' section has three text boxes: 'ID' (jboss-ga-repository), 'Name' (jboss-ga-repository), and 'URL' (http://maven.repository.redhat.com/techpreview/all). Below these is a button with a red gear icon and the text 'Recognize JBoss Maven Enterprise...'. At the bottom left is a help icon (?), and at the bottom right are 'Cancel' and 'OK' buttons.

4. **Add Repository** をクリックして、JBoss Early Access Maven リポジトリを設定します。**Add Maven Repository** ダイアログで以下の手順を実行します。
 - a. **Profile ID**、**Repository ID**、および **Repository Name** の値を **jboss-earlyaccess-repository** に設定します。
 - b. **Repository URL** 値を **http://maven.repository.redhat.com/earlyaccess/all/** に設定します。
 - c. **Active by default** チェックボックスをクリックして Maven リポジトリを有効にします。
 - d. **OK** をクリックします。

図4.9 Maven リポジトリの追加 -JBoss Early Access



Add Maven Repository

Add Maven Repository

Profile


Profile ID: Active by default


Repository

ID:

Name:

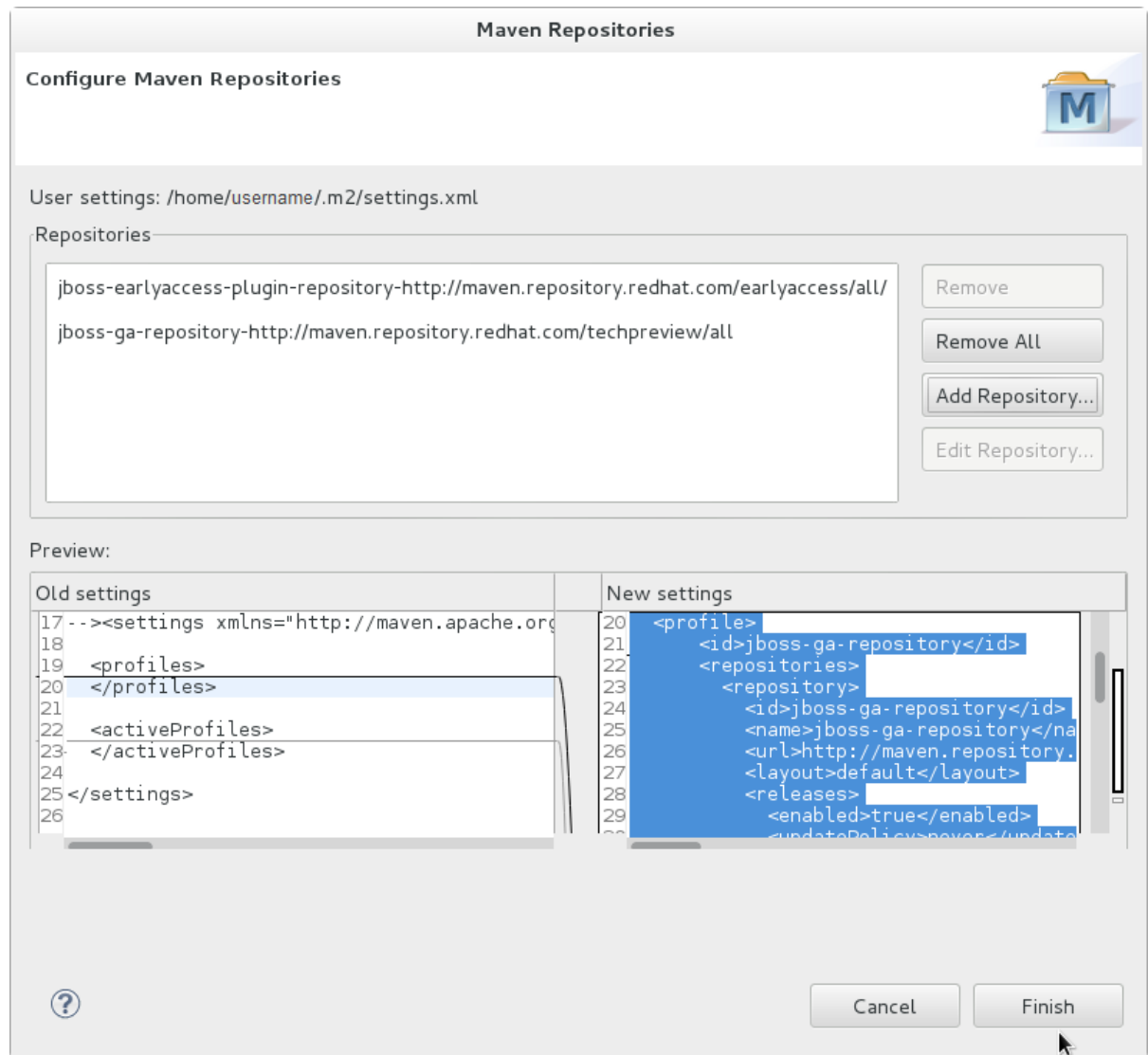
URL:





5. リポジトリを確認して、**Finish** をクリックします。

図4.10 Maven リポジトリを確認する



- Are you sure you want to update the file MAVEN_HOME/settings.xml? というメッセージが表示されます。**Yes** をクリックして設定を更新します。**OK** をクリックしてダイアログを閉じます。

これで、JBoss EAP Maven リポジトリが Red Hat JBoss Developer Studio で使用できるように設定されました。

バグの報告

4.2.4. コマンドライン用に Maven を設定する

4.2.4.1. Maven のダウンロードおよびインストール

Maven コマンドラインを使用して JBoss EAP にアプリケーションをビルドおよびデプロイする場合は、Maven をダウンロードおよびインストールする必要があります。Red Hat JBoss Developer Studio を使用してアプリケーションをビルドおよびデプロイする場合は、Maven が Red Hat JBoss Developer Studio とともに配布されるため、この手順をスキップできます。

- [Apache Maven Project - Download Maven](#) にアクセスし、ご使用のオペレーティングシステムに対応する最新のディストリビューションをダウンロードします。

2. ご使用のオペレーティングシステムに Apache Maven をダウンロードおよびインストールする方法は、Maven のドキュメントを参照してください。

バグの報告

4.2.4.2. コマンドラインで使用するための Maven の設定

アプリケーションをビルドし、JBoss EAP 6 にデプロイするのに必要なアーティファクトと依存関係はパブリックリポジトリでホストされます。Red Hat JBoss Developer Studio を使用してアプリケーションをビルドおよびデプロイする場合は、このトピックをスキップできます。代わりに、次の手順に従ってください。「[Red Hat JBoss Developer Studio で使用するための Maven の設定](#)」。ただし、Maven コマンドラインを使用する場合は、Maven 設定を使用してプロジェクト全体で JBoss EAP 6 Maven リポジトリを使用するように Maven に指示する必要があります。

Maven コマンドラインで使用するための設定方法は 2 つあります。

- クイックスタートに付属している事前設定済みの **settings.xml** ファイルをコピーできます。
- Maven の **settings.xml** ファイルを手動で編集できます。

このトピックでは、両方の方法について説明します。クイックスタートがダウンロードされている場合、最初の手順が最も簡単な設定方法です。

前提条件

設定する前に、Maven をインストールする必要があります。詳細は、「[Maven のダウンロードおよびインストール](#)」を参照してください。

手順4.4 クイックスタートの例に含まれる設定を使って Maven を設定する

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform クイックスタートには、オンラインの JBoss EAP Maven リポジトリを使用するように設定された **settings.xml** ファイルが付属しています。クイックスタートがダウンロードされている場合、この方法が最も簡単な設定方法です。

1. この手順では、既存の Maven 設定ファイルが上書きされるため、既存の **Mavensettings.xml** ファイルをバックアップする必要があります。
 - a. オペレーティングシステムの Maven インストールディレクトリを見つけます。通常、**USER_HOME/.m2/** ディレクトリにインストールされます。
 - Linux または Mac では、これは **~/.m2/** になります。
 - Windows の場合、これは次のとおりです。**\Documents and Settings\USER_NAME\.m2** または **\Users\USER_NAME\.m2**
 - b. 既存の **USER_HOME/.m2/settings.xml** ファイルがある場合は、後で復元できるように、ファイルの名前を変更するか、バックアップコピーを作成します。
2. クイックスタートをまだダウンロードしていない場合は、次の手順に従ってください。「[クイックスタートのダウンロード](#)」。
3. **QUICKSTART_HOME/settings.xml** ファイルを **USER_HOME/.m2/** ディレクトリにコピーします。
4. Red Hat JBoss Developer Studio の実行中に **settings.xml** ファイルを変更する場合は、このトピックの最後にある『Refresh the Red Hat JBoss Developer Studio User Settings』というタイトルトピックの最後にある手順に従ってください。

手順4.5 Online JBoss EAP Maven リポジトリを使用するには、Maven 設定を手動で編集および設定します

JBoss EAP プロファイルを既存の Maven 設定ファイルに手動で追加できます。

1. オペレーティングシステムの Maven インストールディレクトリを見つけます。通常、**USER_HOME/.m2/** ディレクトリにインストールされます。
 - Linux または Mac では、これは **~/.m2/** になります。
 - Windows の場合、これは **\Documents and Settings\USER_NAME\.m2** または **\Users\USER_NAME\.m2** です。
2. **settings.xml** ファイルが見つからない場合、**settings.xml** ファイルを **USER_HOME/.m2/conf/** ディレクトリから **USER_HOME/.m2/** ディレクトリへコピーします。
3. 次の XML を **<profiles>** ファイルの要素にコピーします。

```
<!-- Configure the JBoss GA Maven repository -->
<profile>
  <id>jboss-ga-repository</id>
  <repositories>
    <repository>
      <id>jboss-ga-repository</id>
      <url>http://maven.repository.redhat.com/techpreview/all</url>
      <releases>
        <enabled>>true</enabled>
      </releases>
      <snapshots>
        <enabled>>false</enabled>
      </snapshots>
    </repository>
  </repositories>
  <pluginRepositories>
    <pluginRepository>
      <id>jboss-ga-plugin-repository</id>
      <url>http://maven.repository.redhat.com/techpreview/all</url>
      <releases>
        <enabled>>true</enabled>
      </releases>
      <snapshots>
        <enabled>>false</enabled>
      </snapshots>
    </pluginRepository>
  </pluginRepositories>
</profile>
<!-- Configure the JBoss Early Access Maven repository -->
<profile>
  <id>jboss-earlyaccess-repository</id>
  <repositories>
    <repository>
      <id>jboss-earlyaccess-repository</id>
      <url>http://maven.repository.redhat.com/earlyaccess/all/</url>
      <releases>
        <enabled>>true</enabled>
      </releases>
      <snapshots>
```



```
<enabled>>false</enabled>
</snapshots>
</repository>
</repositories>
<pluginRepositories>
<pluginRepository>
<id>jboss-earlyaccess-plugin-repository</id>
<url>http://maven.repository.redhat.com/earlyaccess/all/</url>
<releases>
<enabled>>true</enabled>
</releases>
</pluginRepository>
</pluginRepositories>
</profile>
```

次の XML を **settings.xml** ファイルの要素 **<activeProfiles>** にコピーします。

```
<activeProfile>jboss-ga-repository</activeProfile>
<activeProfile>jboss-earlyaccess-repository</activeProfile>
```

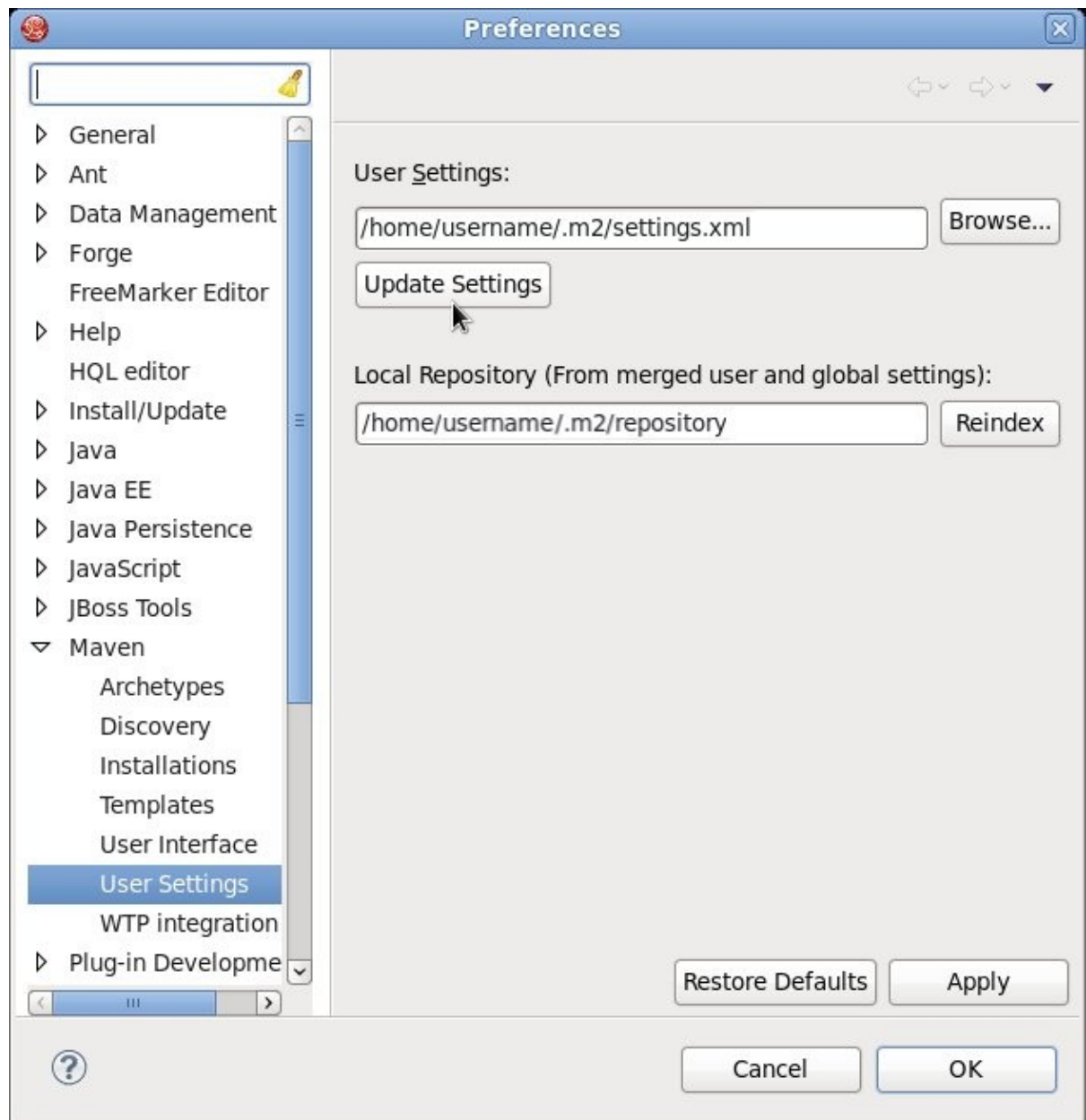
4. Red Hat JBoss Developer Studio の実行中に **settings.xml** ファイルを変更する場合は、このトピックの最後にある 『Refresh the Red Hat JBoss Developer Studio User Settings』 というタイトルトピックの最後にある手順に従ってください。

手順4.6 Red Hat JBoss Developer Studio のユーザー設定を更新します

Red Hat JBoss Developer Studio の実行中に **settings.xml** ファイルを変更する場合は、ユーザー設定を更新する必要があります。

1. メニューから、**Window** → **Preferences** を選択します。
2. **Preferences** ウィンドウで **Maven** を展開表示し、**User Settings** を選択します。
3. **Update Settings** ボタンをクリックし、Red Hat JBoss Developer Studio で Maven のユーザー設定を更新します。

図4.11 Maven ユーザー設定を更新する



[D]

重要

Maven リポジトリに古いアーティファクトが含まれる場合は、プロジェクトをビルドまたはデプロイしたときに以下のいずれかの Maven エラーメッセージが表示されることがあります。

- アーティファクト *ARTIFACT_NAME* がありません
- [ERROR] Failed to execute goal on project *PROJECT_NAME*; Could not resolve dependencies for *PROJECT_NAME*

この問題を解決するには、最新の Maven アーティファクトをダウンロードするためにローカルリポジトリのキャッシュバージョンを削除します。キャッシュされたリポジトリは、Linux の場合は `~/.m2/repository/` サブディレクトリー、Windows の場合は `%SystemDrive%\Users\USERNAME\.m2\repository\` サブディレクトリーにあります。

[バグの報告](#)

第5章 やってみよう

5.1. クイックスタートを実行する

5.1.1. Red Hat JBoss Developer Studio でクイックスタートを実行します

このセクションでは、Red Hat JBoss Developer Studio を使用してクイックスタートをデプロイし、Arquillian テストを実行する方法について説明します。

手順5.1 クイックスタートを Red Hat JBoss Developer Studio にインポートします

各クイックスタートには、クイックスタートのプロジェクトおよび設定情報を含む POM(プロジェクトオブジェクトモデル) ファイルが付属しています。この POM ファイルを使用すると、クイックスタートを Red Hat JBoss Developer Studio に簡単にインポートできます。

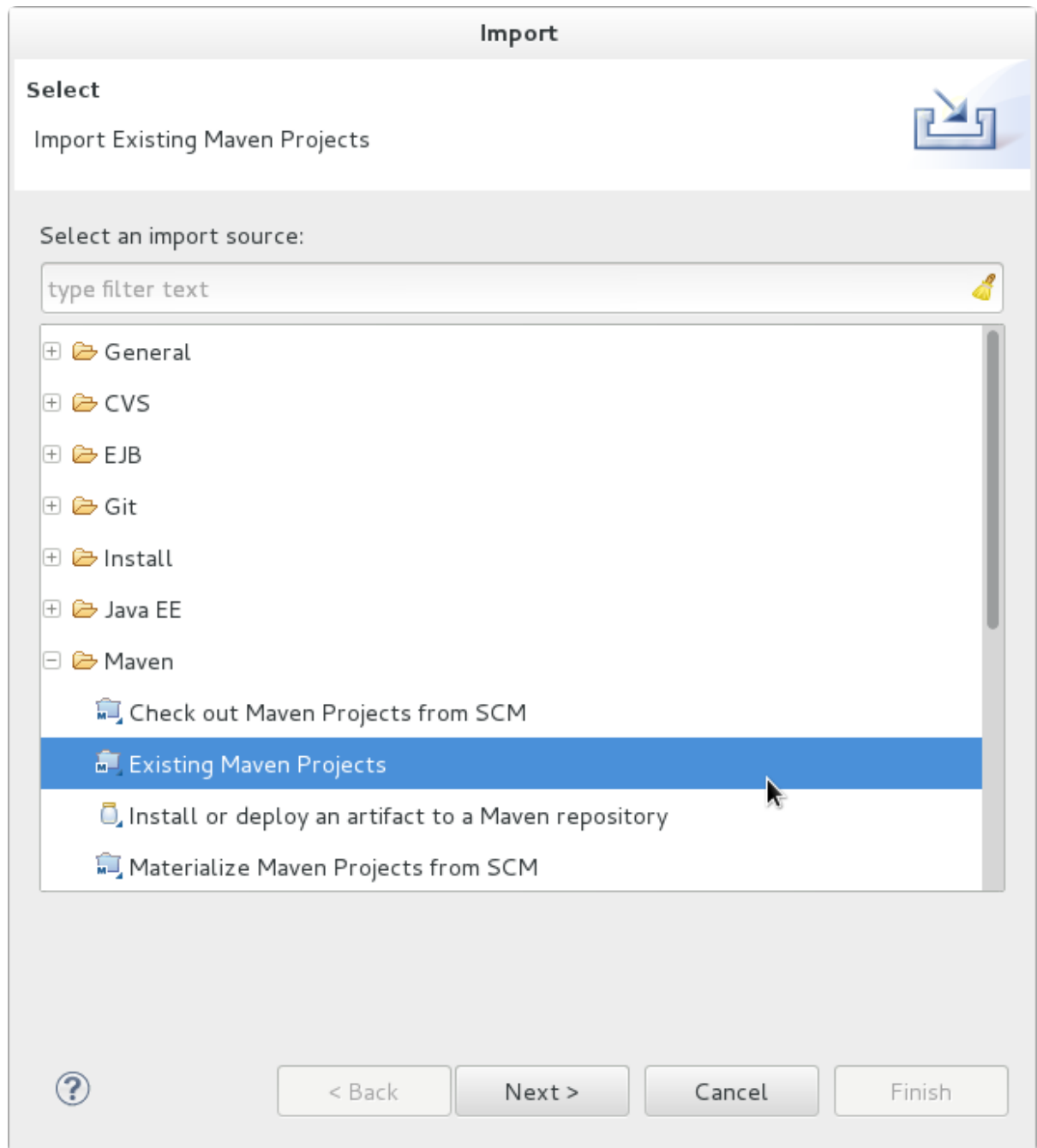


重要

Red Hat JBoss Developer Studio へのインポート時にクイックスタートプロジェクトフォルダーが IDE ワークスペース内にある場合、IDE は無効なプロジェクト名と WAR アーカイブ名を生成します。作業を開始する前に、クイックスタートプロジェクトフォルダーが IDE ワークスペースの外部にあることを確認してください。

1. まだ行っていない場合は、[「コマンドラインで使用するための Maven の設定」](#)。
2. Red Hat JBoss Developer Studio を起動します。
3. メニューから File → Import を選択します。
4. 選択リストで、Maven → Existing Maven Projects を選択し、Next をクリックします。

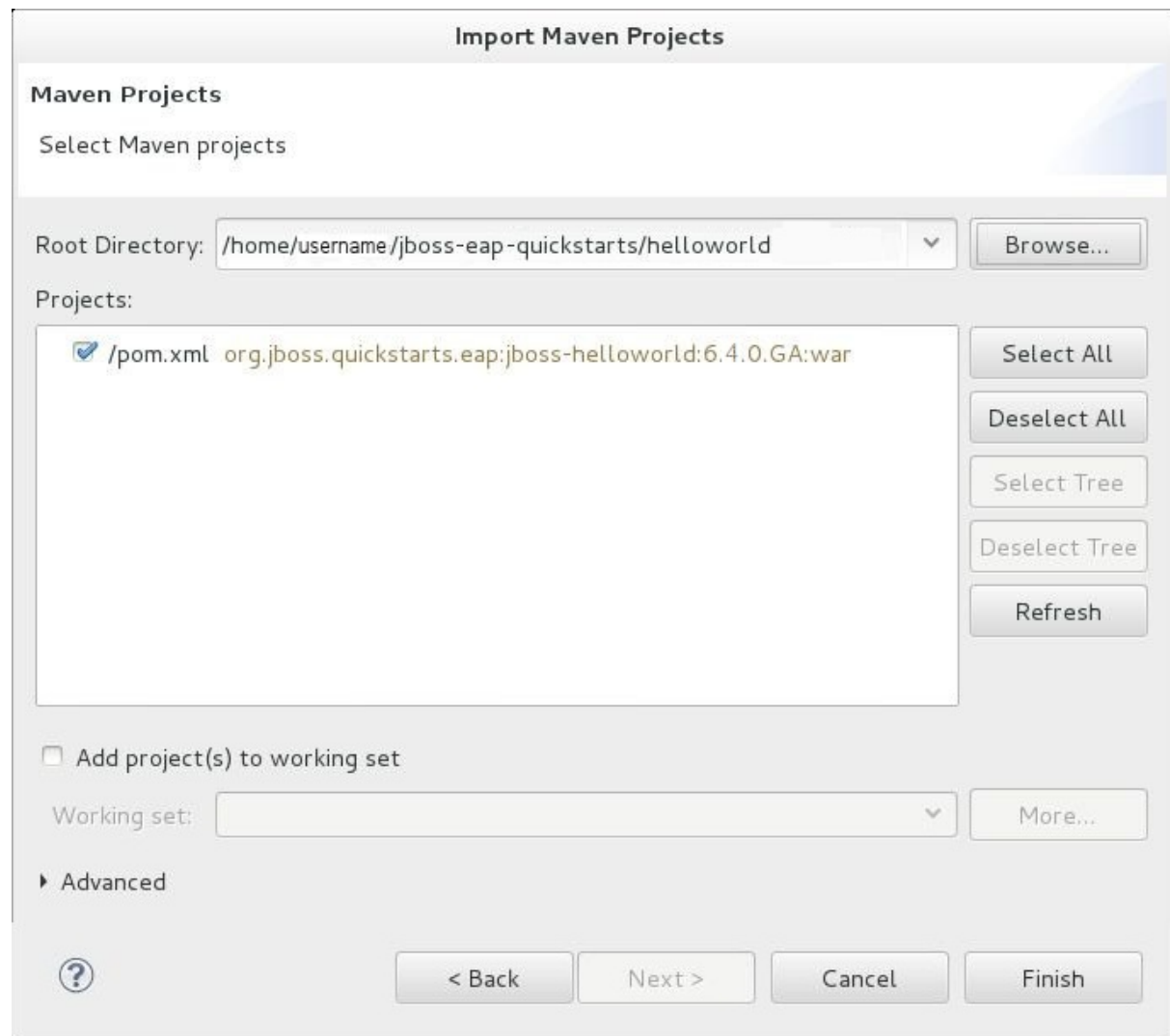
図5.1 既存の Maven プロジェクトのインポート



[D]

5. テストする予定のクイックスタートのディレクトリー (たとえば、**helloworld** クイックスタート) を参照し、OK をクリックします。Projects リストボックスに、選択したクイックスタートプロジェクトの **pom.xml** ファイルが示されます。

図5.2 Maven プロジェクトの選択



[D]

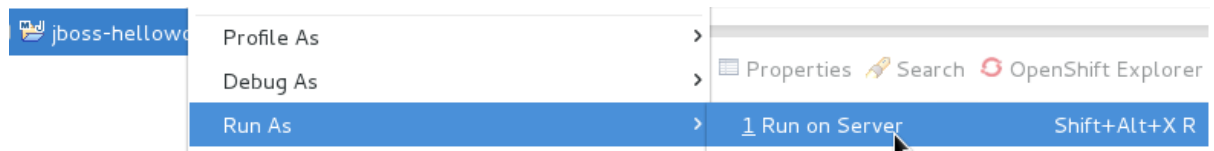
6. **Finish** をクリックします。

手順5.2 helloworld クイックスタートをビルドしてデプロイする

helloworld クイックスタートは最もシンプルなクイックスタートの1つであり、JBoss サーバーが正しく設定され実行されていることを確認するための良い方法です。

1. **Servers** タブが表示されない場合、またはサーバーをまだ定義していない場合は、次の手順に従ってください。「[Define New Server を使用して JBossEAP サーバーを追加します](#)」。full プロファイルまたは追加のスタートアップ引数を必要とするクイックスタートをデプロイする場合は、クイックスタートの手順に記載されているように、必ずサーバーランタイム環境を作成してください。
2. **Project Explorer** タブで `jboss-helloworld` プロジェクトを右クリックし、**Run As** を選択します。選択肢のリストが提供されます。Run on Server を選択します。

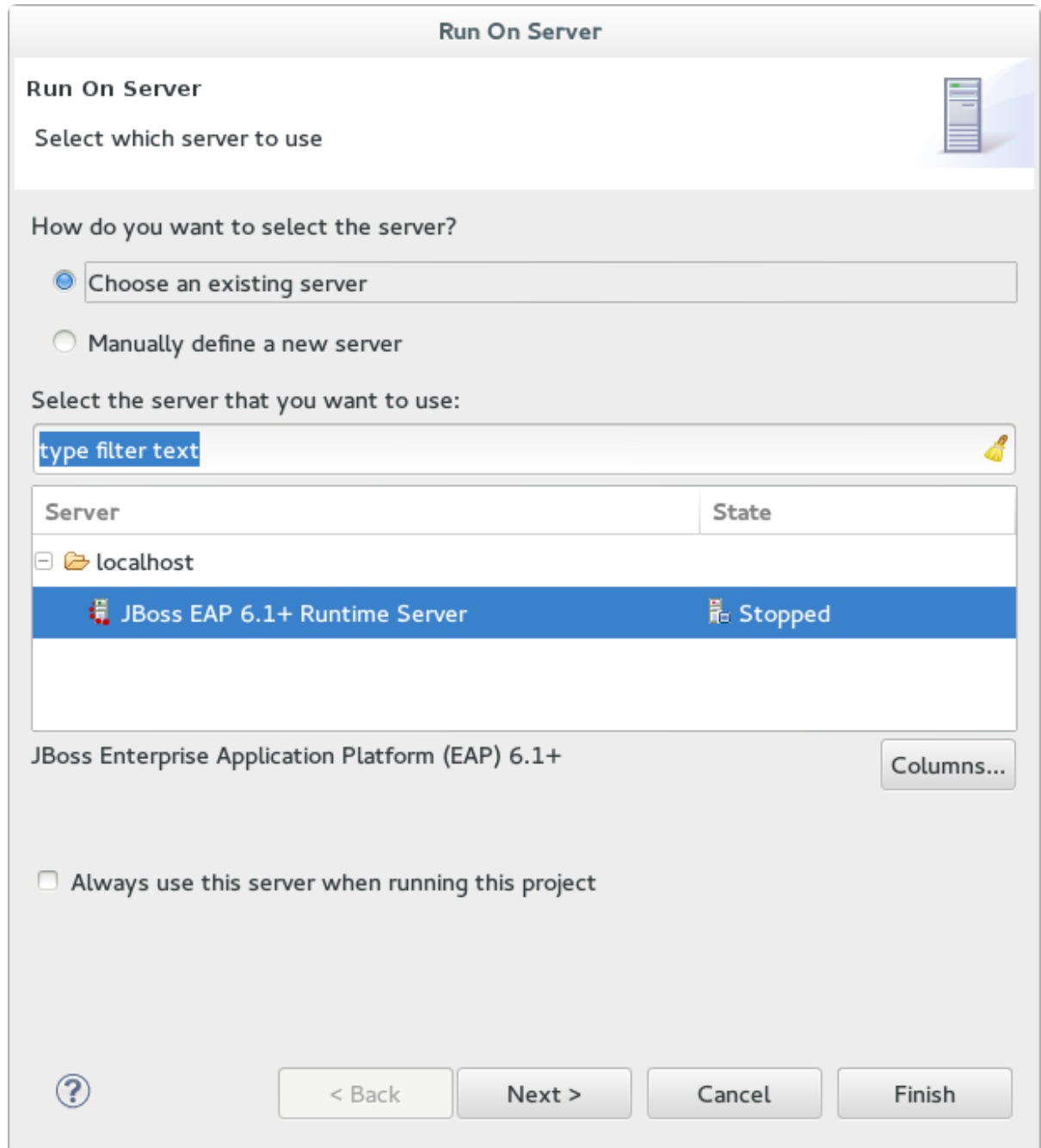
図5.3 Run As - Run on Server



[D]

3. サーバーリストから **JBoss EAP 6.1+ Runtime Server** を選択し、**Next** をクリックします。

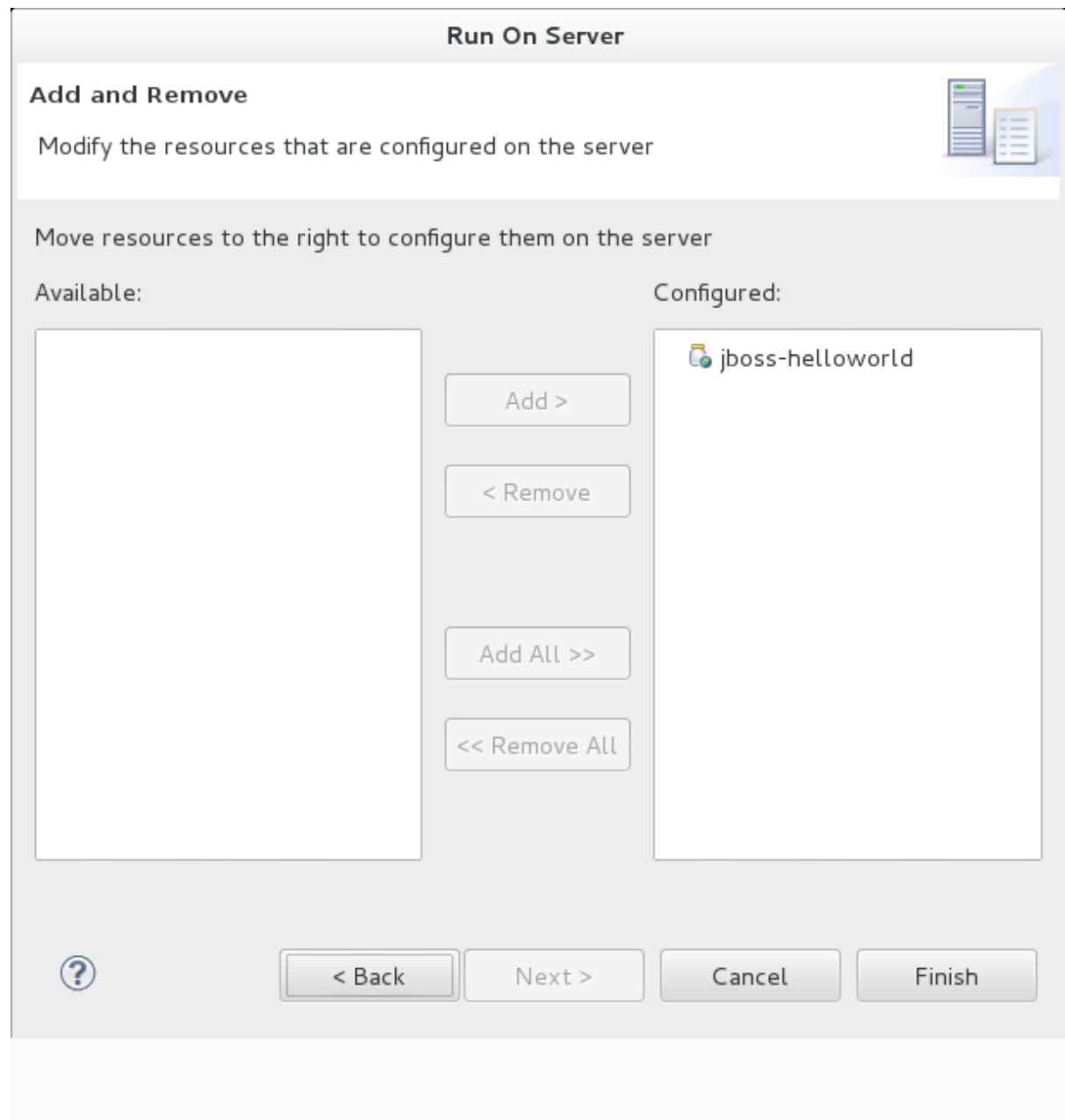
図5.4 Run on Server



[D]

4. 次の画面には、サーバーで設定されているリソースが表示されます。jboss-helloworld クイックスタートが設定されています。**Finish** をクリックしてクイックスタートをデプロイします。

図5.5 サーバーで設定されたリソースの変更



[D]

5. 結果を表示します。

- **Server** タブで、JBoss EAP 6.x ランタイムサーバーのステータスが **[Started, Republish]** に変わります。
- サーバーの **Console** タブには、JBoss EAP 6.x サーバーの起動と helloworld クイックスタートのデプロイメントの詳細を示すメッセージが表示されます。
- URL (<http://localhost:8080/jboss-helloworld/HelloWorld>) とテキスト Hello World! を示す helloworld タブが表示されます。
- **Console** の次のメッセージは、jboss-helloworld.war ファイルのデプロイを確認します。

```
JBAS018210: Register web context: /jboss-helloworld
JBAS018559: Deployed "jboss-helloworld.war" (runtime-name : "jboss-helloworld.war")
```

登録された Web コンテキストは <http://localhost:8080> に追加され、デプロイされたアプリケーションへのアクセスに使用される URL を提供します。

- JBoss サーバーに正常にデプロイされた helloworld クイックスタートを確認するには、Web ブラウザーを開き、次の URL でアプリケーションにアクセスします。 <http://localhost:8080/jboss-helloworld>

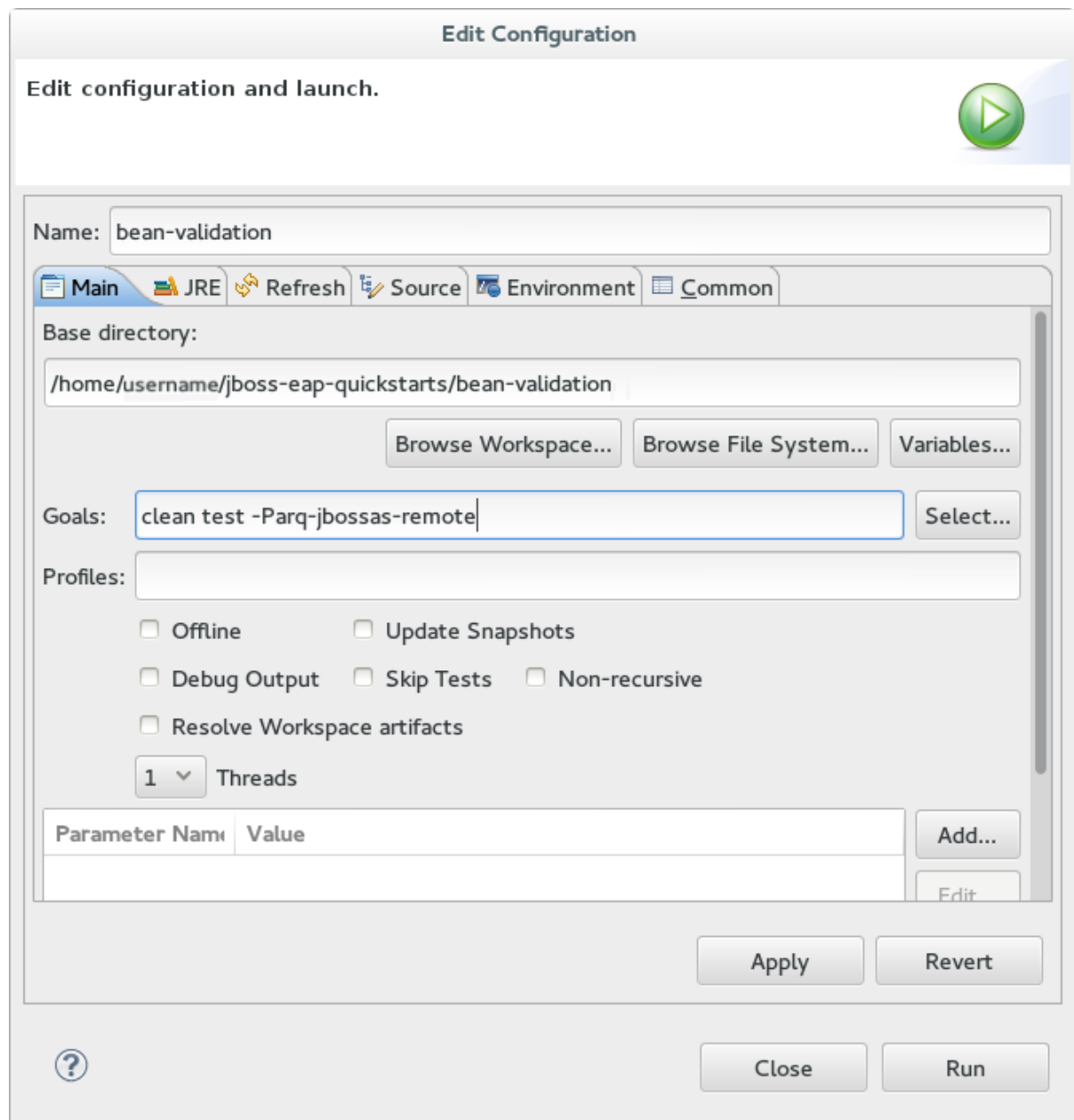
手順5.3 bean-validation クイックスタート Arquillian テストの実行

一部のクイックスタートは、ユーザーインターフェイスレイヤーを提供せず、代わりにコード例を示すための Arquillian テストを提供します。bean-validation クイックスタートは、Arquillian テストを提供するクイックスタートの例です。

- 上記の手順に従って、bean-validation クイックスタートを Red Hat JBoss Developer Studio にインポートします。
- Servers** タブでサーバーを右クリックし、**Start** を選択して JBoss EAP サーバーを起動します。Servers タブが表示されない場合、またはサーバーをまだ定義していない場合は、次の手順に従ってください。「[Define New Server を使用して JBossEAP サーバーを追加します](#)」。
- Project Explorer** タブで `jboss-bean-validation` プロジェクトを右クリックし、**Run As** を選択します。選択肢のリストが提供されます。Maven Build を選択します。
- Edit Configuration** ダイアログの **Goals** 入力フィールドに、次のように入力します `clean test -Parq-jbossas-remote`。

次に、**Run** をクリックします。

図5.6 設定の編集



[D]

5. 結果を表示します。

サーバーの **Console** タブには、JBoss EAP サーバーの起動と **bean-validation** クイックスタート Arquillian テストの出力の詳細を示すメッセージが表示されます。

```

-----
TESTS
-----

```

```

Running org.jboss.as.quickstarts.bean_validation.test.MemberValidationTest
Tests run: 5, Failures: 0, Errors: 0, Skipped: 0, Time elapsed: 2.189 sec

```

```

Results :

```

```

Tests run: 5, Failures: 0, Errors: 0, Skipped: 0

```

```
[INFO] -----  
[INFO] BUILD SUCCESS  
[INFO] -----
```

バグの報告

5.1.2. コマンドラインを使用してクイックスタートを実行する

手順5.4 コマンドラインを使用してクイックスタートをビルドおよびデプロイする

コマンドラインを使用して、クイックスタートを簡単にビルドおよびデプロイできます。コマンドラインを使用する場合、必要に応じて JBoss サーバーを起動する必要があることに注意してください。

1. まだ行っていない場合は、[「コマンドラインで使用するための Maven の設定」](#)。
2. クイックスタートのルートディレクトリーにある README.html ファイルを確認します。

このファイルには、システム要件、Maven の設定方法、ユーザーの追加方法、およびクイックスタートの実行方法に関する一般的な情報が含まれています。始める前に必ず読んでください。

また、利用可能なクイックスタートを一覧表示する表も含まれています。この表には、各クイックスタート名とそれが示すテクノロジーがリストされています。各クイックスタートと、それを設定するために必要な経験のレベルについて簡単に説明します。クイックスタートの詳細は、クイックスタート名をクリックしてください。

一部のクイック起動は、他のクイック起動を強化または拡張するように設計されています。これらは、Prerequisites の列に記載されています。クイックスタートに前提条件がリストされている場合は、クイックスタートを使用する前にまずそれらをインストールする必要があります。

一部のクイックスタートでは、オプションのコンポーネントのインストールと設定が必要です。クイックスタートで必要な場合を除いて、これらのコンポーネントをインストールしないでください。

3. helloworld クイックスタートを実行します。

helloworld クイックスタートは最もシンプルなクイックスタートの1つであり、JBoss サーバーが正しく設定され実行されていることを確認するための良い方法です。helloworld クイックスタートのルートにある README.html ファイルを開きます。クイックスタートをビルドしてデプロイし、実行中のアプリケーションにアクセスする方法の詳細な手順が含まれています。

4. 他のクイックスタートを実行します。

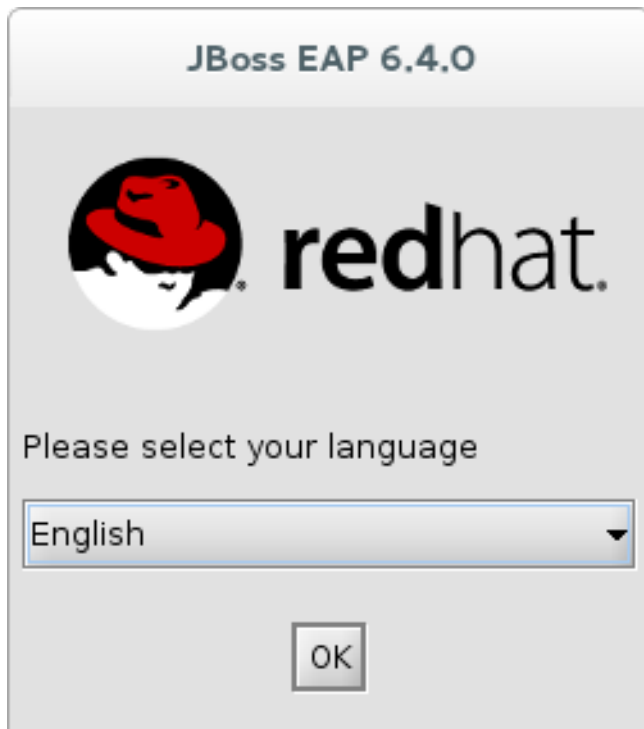
各クイックスタートのルートフォルダーにある README.html ファイルの指示に従って、例を実行します。

バグの報告

付録A インストールプログラムのスクリーンショット

A.1. 言語の選択

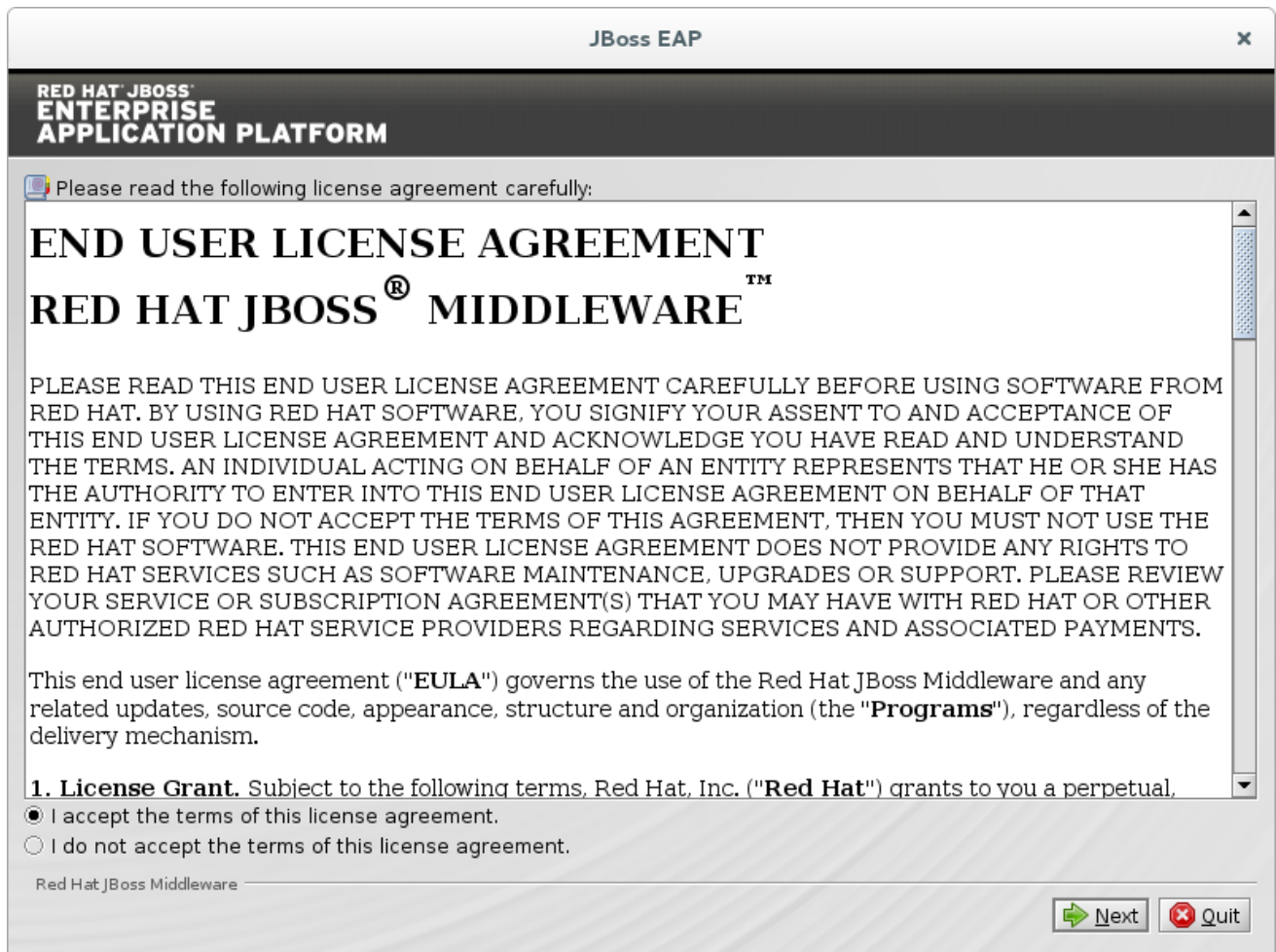
図A.1 JBoss EAP インストールプログラムの言語選択



[バグの報告](#)

A.2. 使用許諾契約書

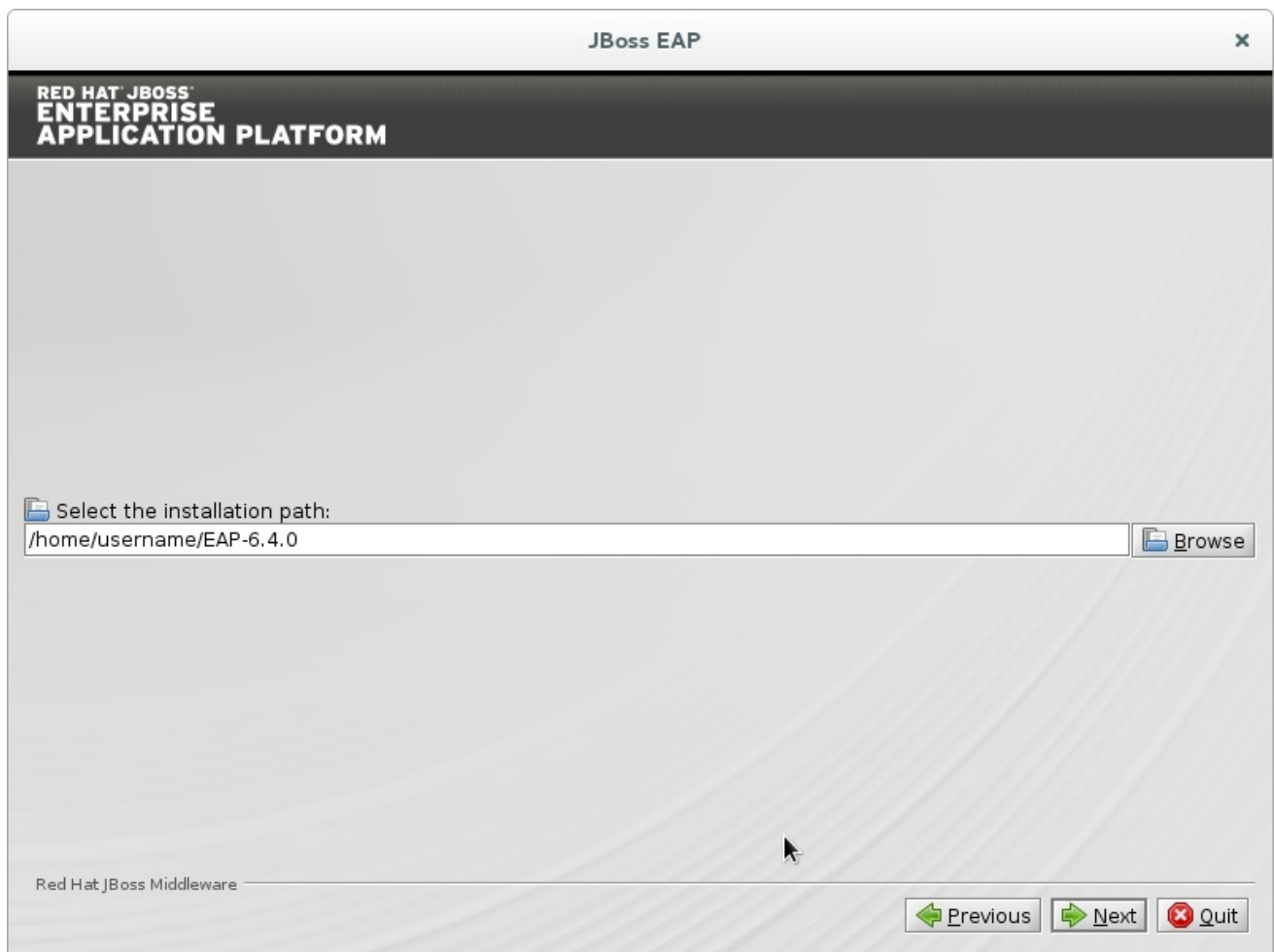
図A.2 JBoss EAP インストールプログラムのエンドユーザー使用許諾契約



バグの報告

A.3. インストールパス

図A.3 JBoss EAP インストールプログラムのインストールパス

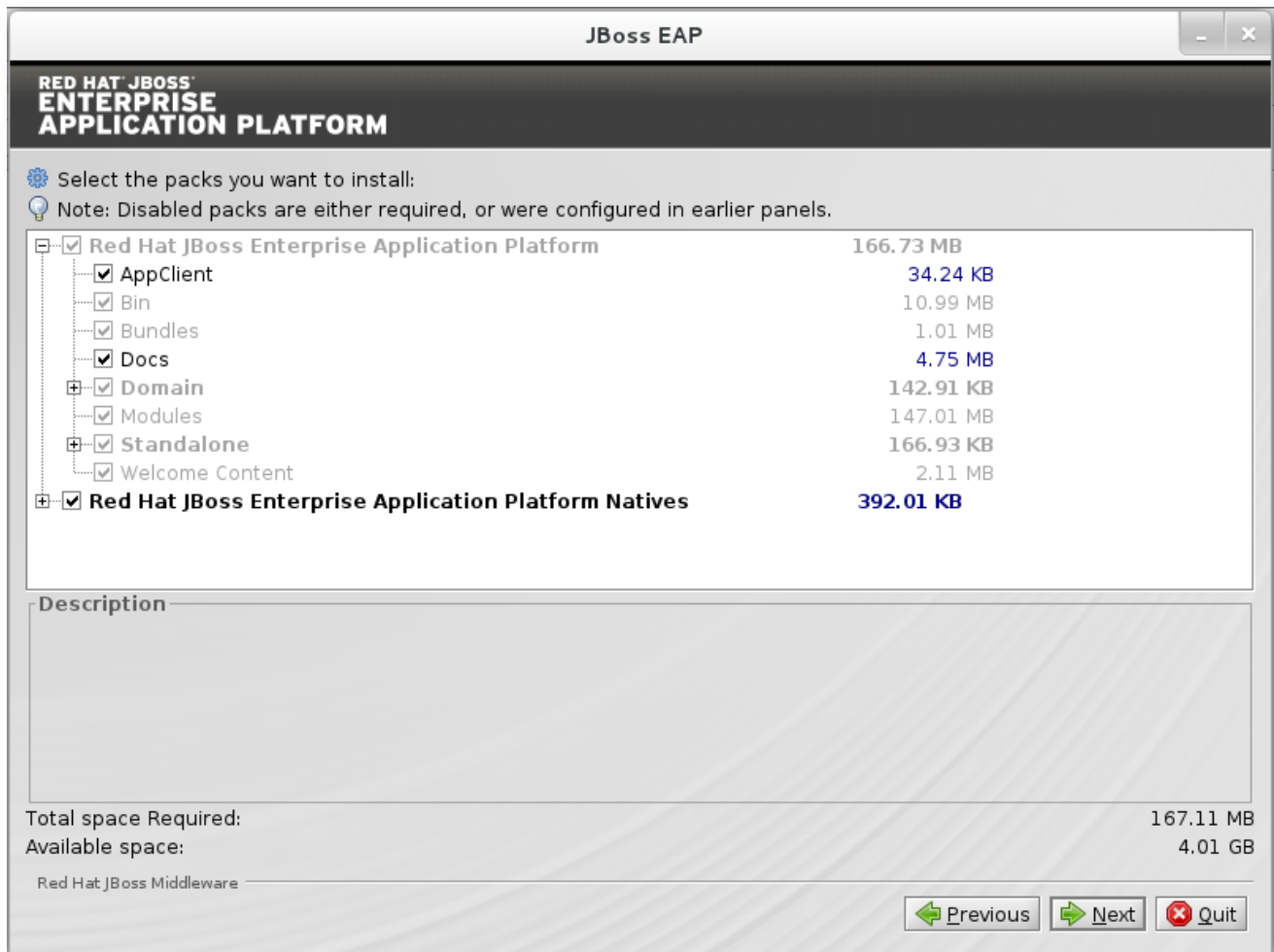


バグの報告

A.4. インストールするパックを選択します

インストールするパックを選択または選択解除します。必要なパックは選択解除のために無効になっています。

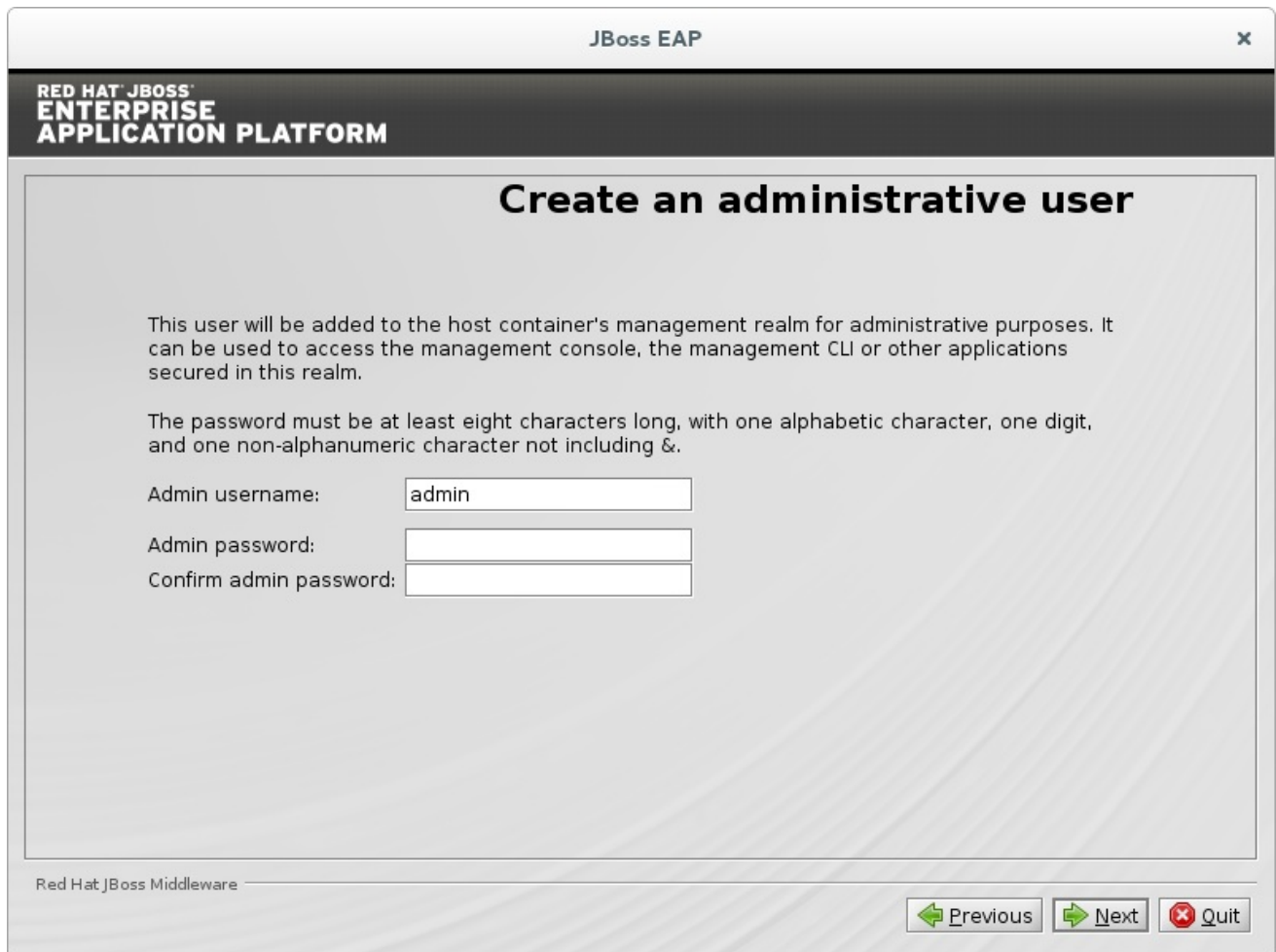
図A.4 JBoss EAP インストールプログラムをインストールするパックを選択



バグの報告

A.5. 管理ユーザーの作成

図A.5 JBoss EAP インストールプログラム管理ユーザーの作成



The screenshot shows a window titled "JBoss EAP" with a close button in the top right corner. Below the title bar is a dark header with the text "RED HAT JBOSS ENTERPRISE APPLICATION PLATFORM". The main content area is titled "Create an administrative user" and contains the following text:

This user will be added to the host container's management realm for administrative purposes. It can be used to access the management console, the management CLI or other applications secured in this realm.

The password must be at least eight characters long, with one alphabetic character, one digit, and one non-alphanumeric character not including &.

Admin username:

Admin password:

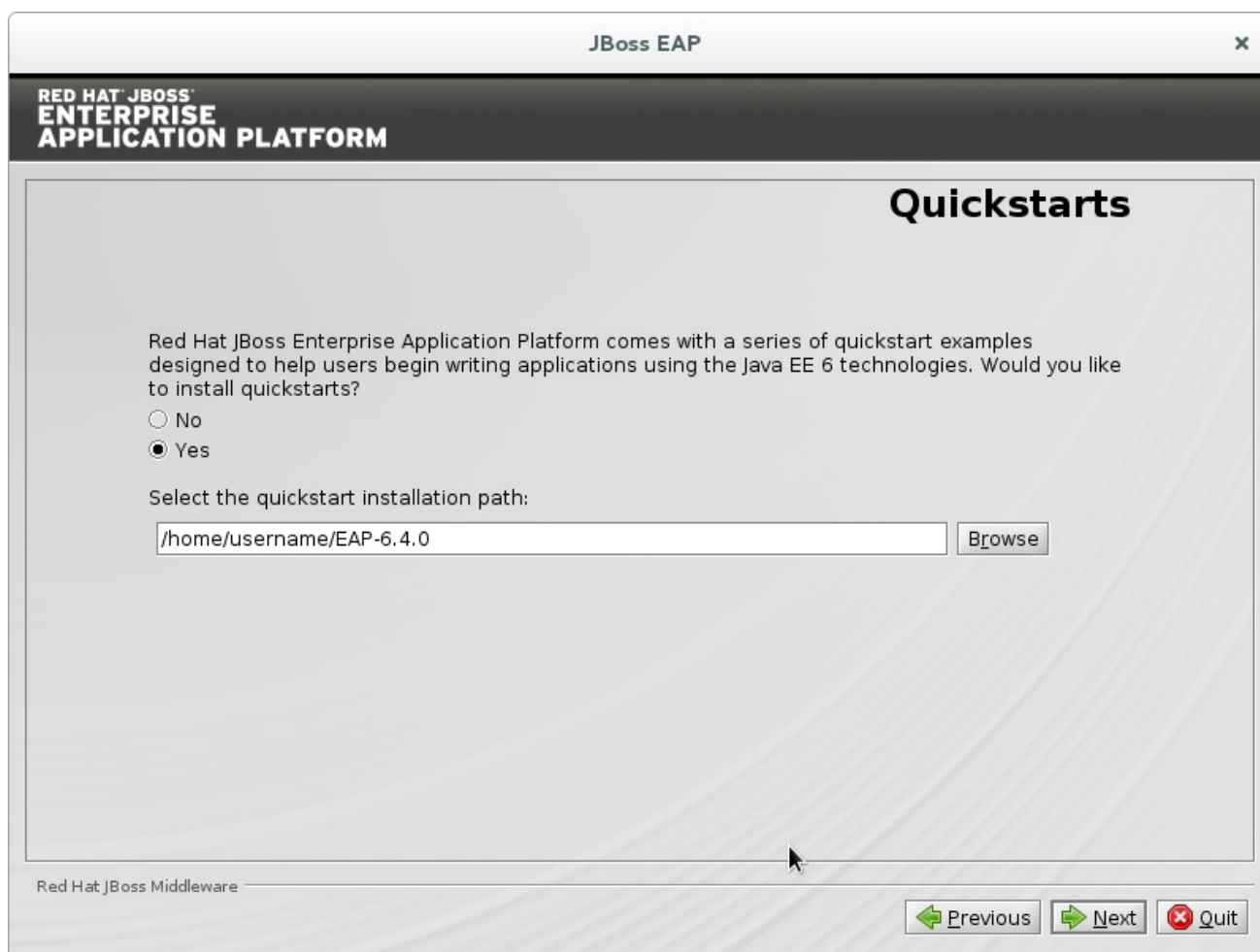
Confirm admin password:

At the bottom left, it says "Red Hat JBoss Middleware". At the bottom right, there are three buttons: "Previous" (with a left arrow), "Next" (with a right arrow), and "Quit" (with a red X icon).

バグの報告

A.6. クイックスタートインストール

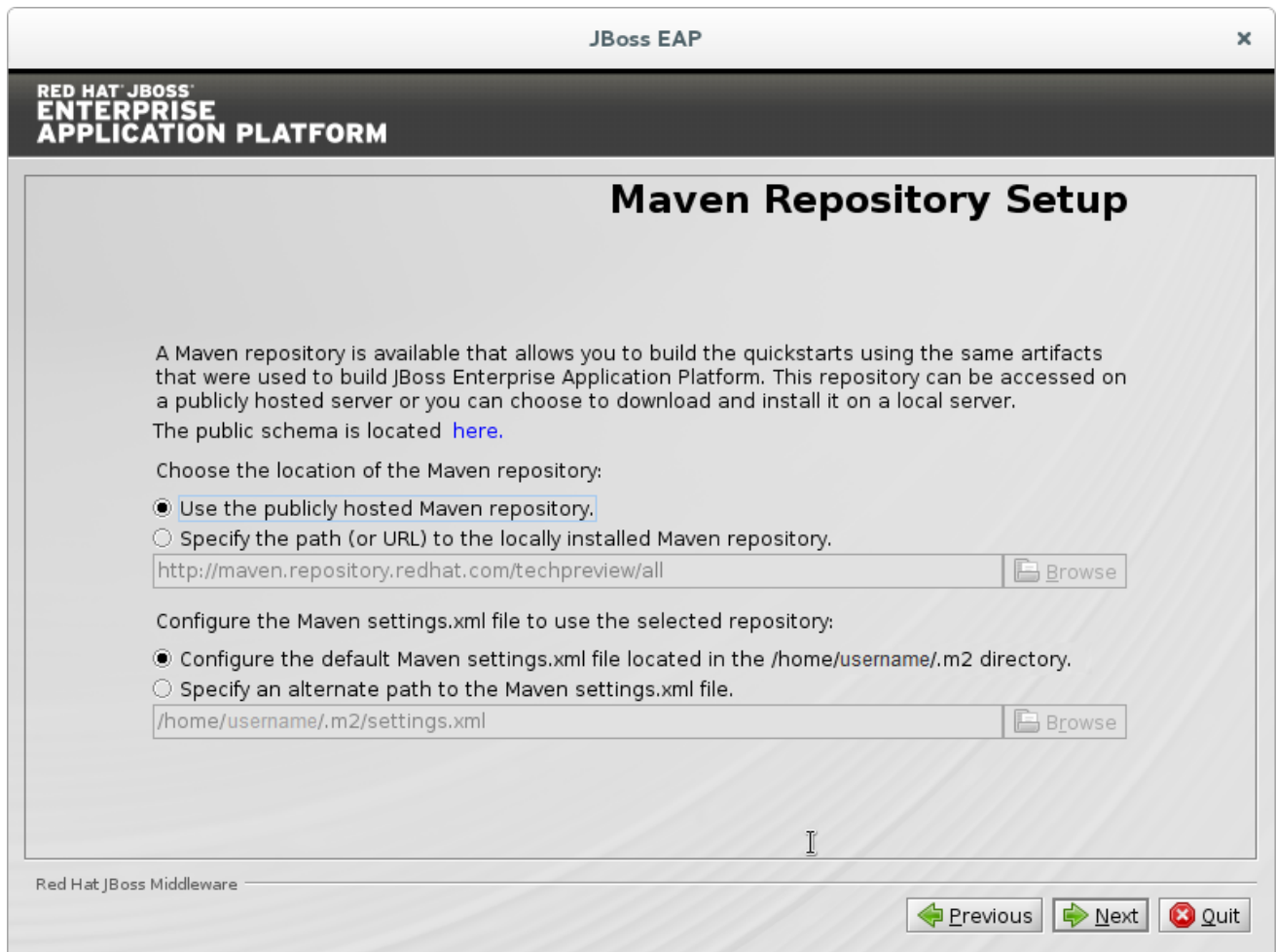
図A.6 JBoss EAP インストールプログラムのクイックスタートセットアップ



バグの報告

A.7. MAVEN リポジトリのセットアップ

図A.7 JBoss EAP インストールプログラム Maven リポジトリセッアップ

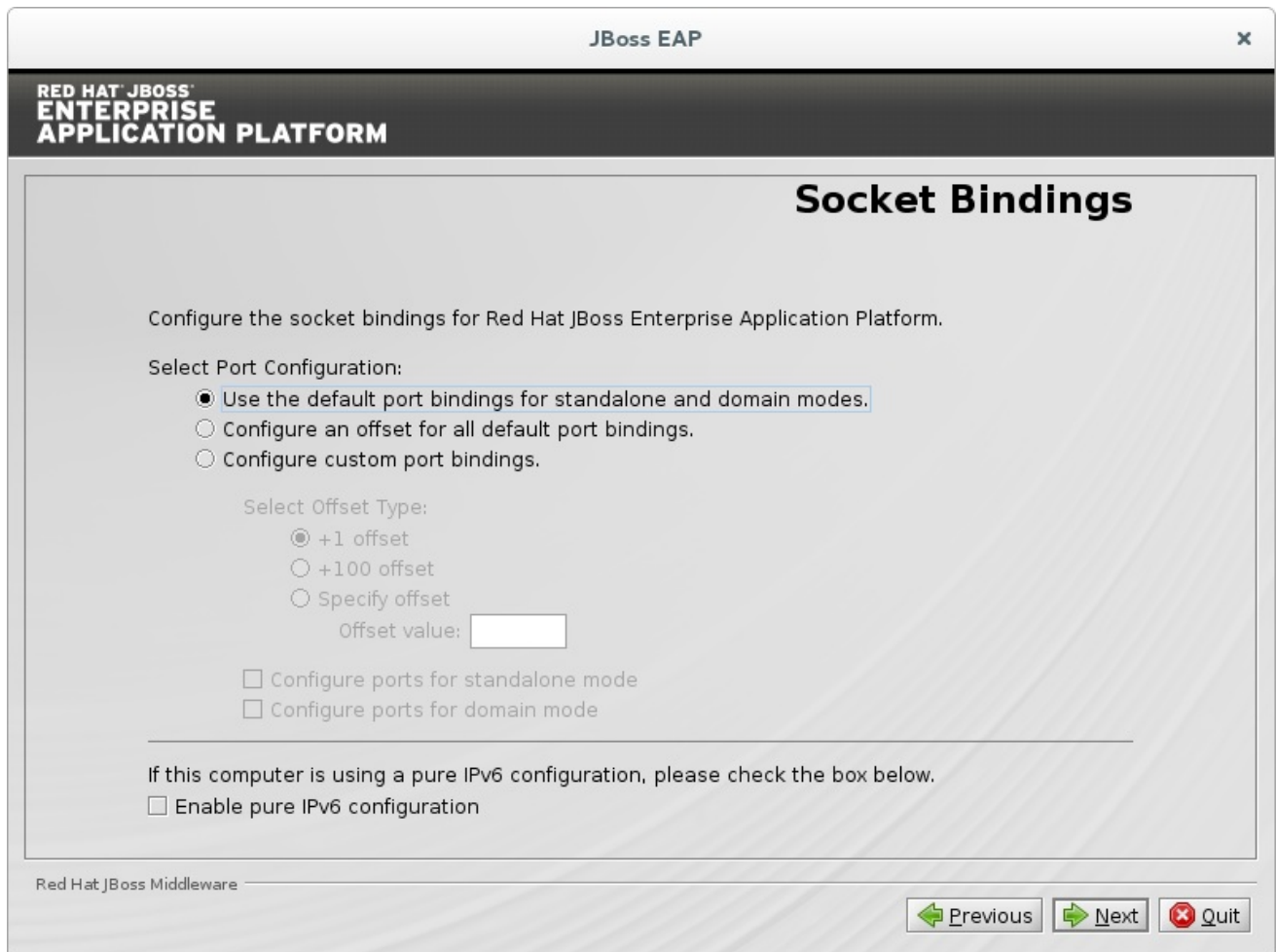


バグの報告

A.8. ソケットバインディングのセットアップ

デフォルトのバインディングを使用するか、カスタムバインディングを設定するかを決定します。ホストが IPv6 only に設定されている場合は、**Enable pure IPv6 configuration** チェックボックスをオンにします。

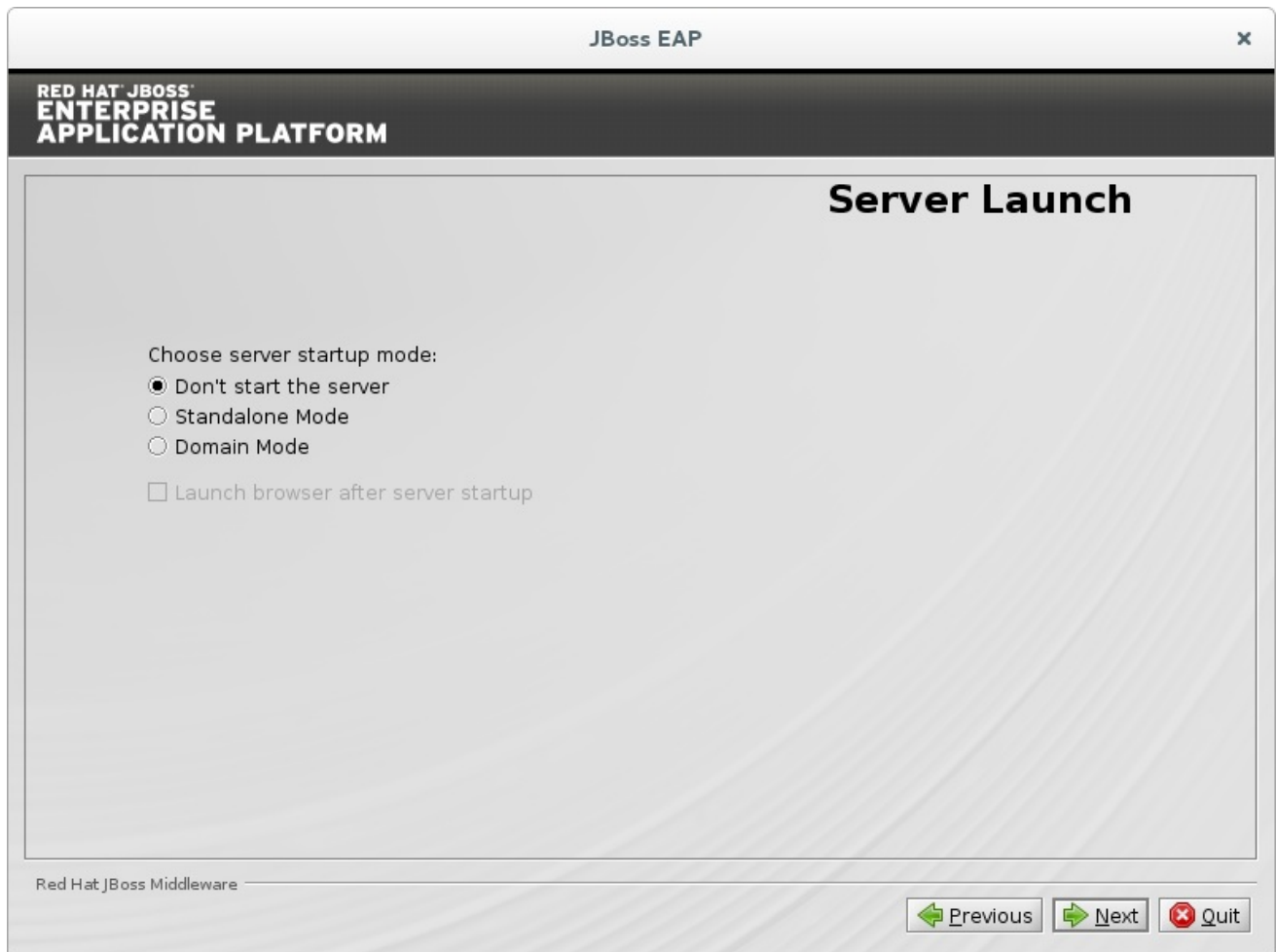
図A.8 JBoss EAP インストールプログラムのデフォルトのソケットバインディング



バグの報告

A.9. サーバーの起動

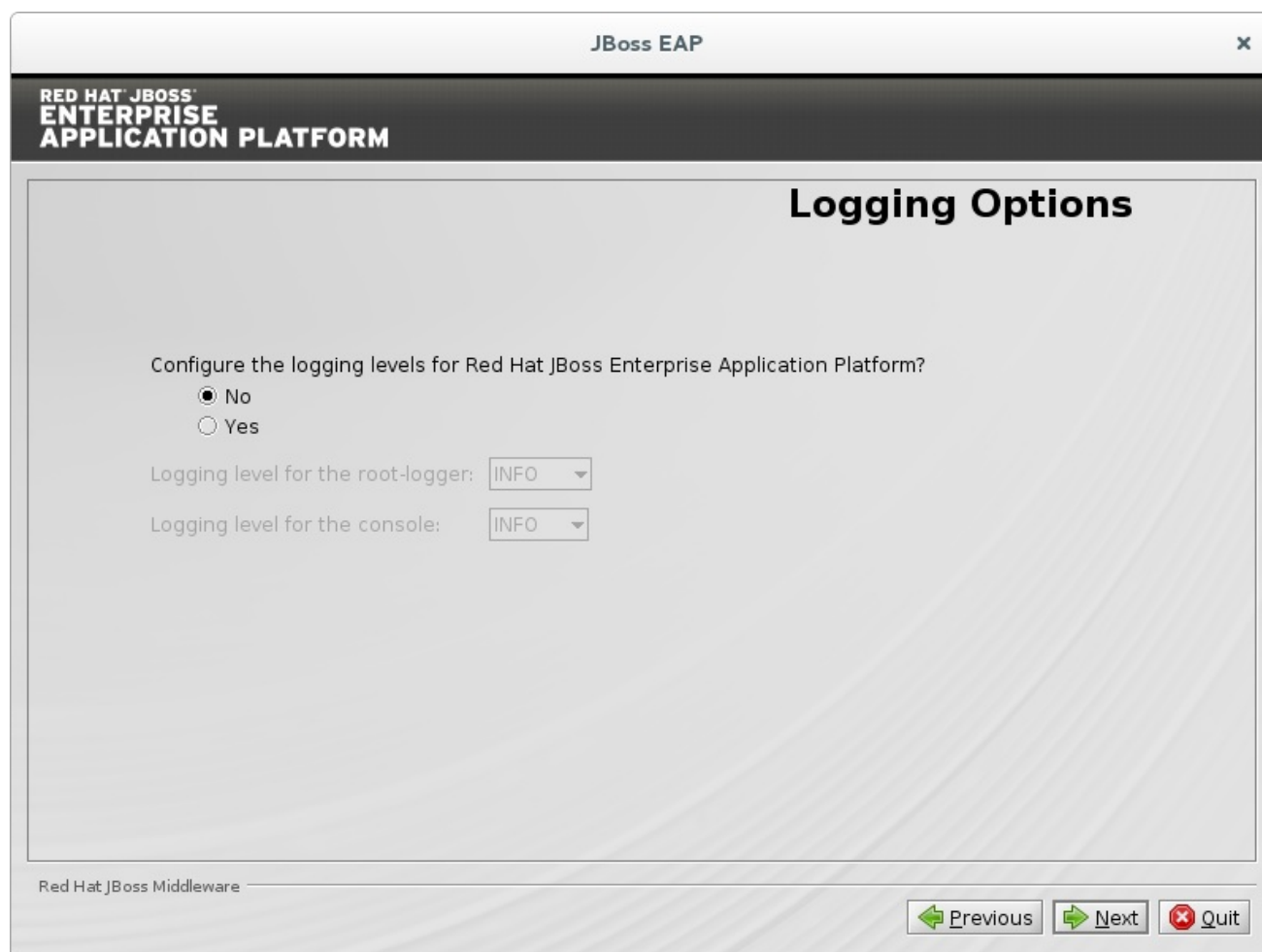
図A.9 JBoss EAP インストールプログラムサーバーの起動



[バグの報告](#)

A.10. ログインレベルの設定

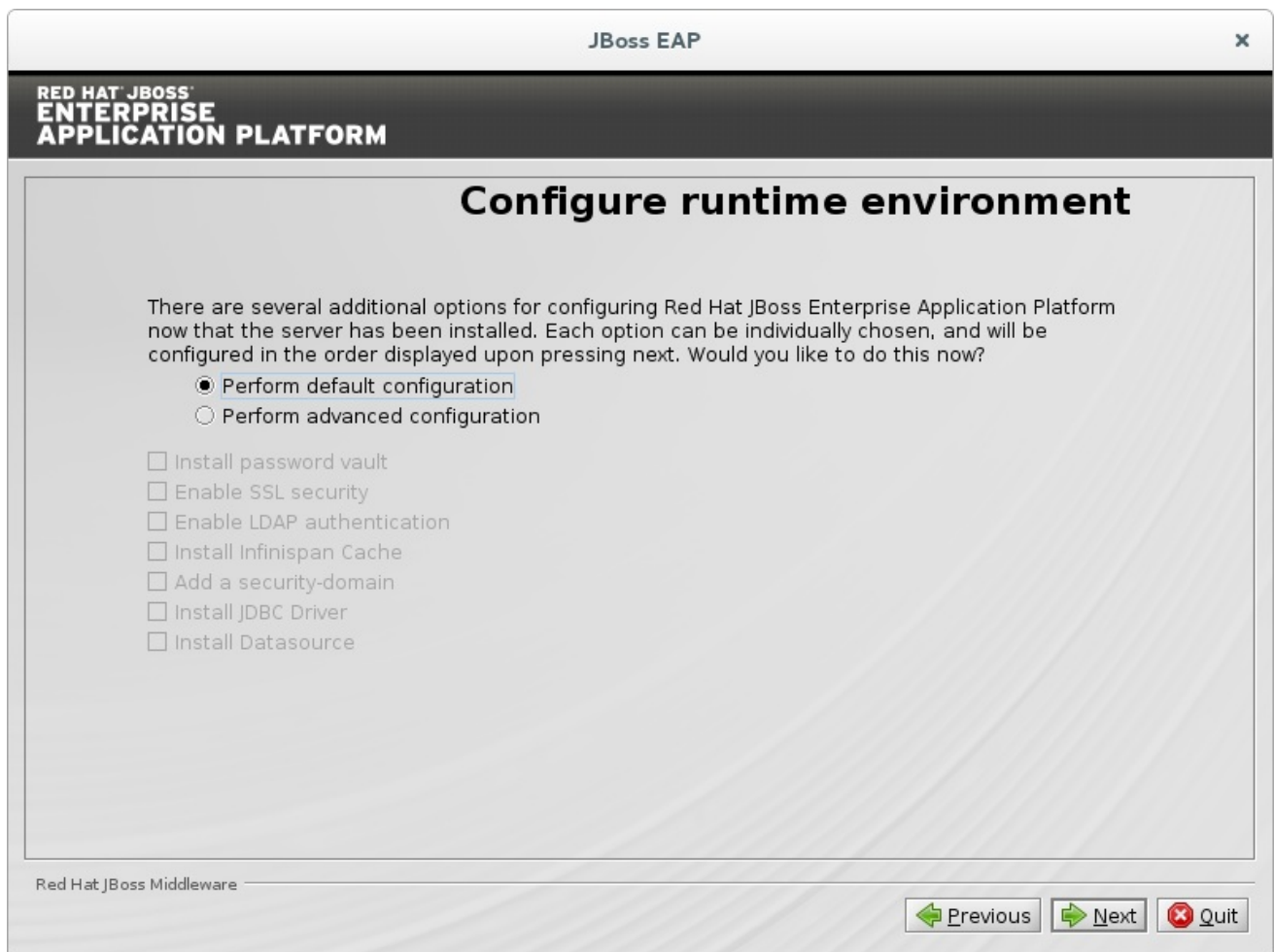
図A.10 JBoss EAP インストールプログラムはロギングレベル設定をスキップする



バグの報告

A.11. ランタイム環境の設定

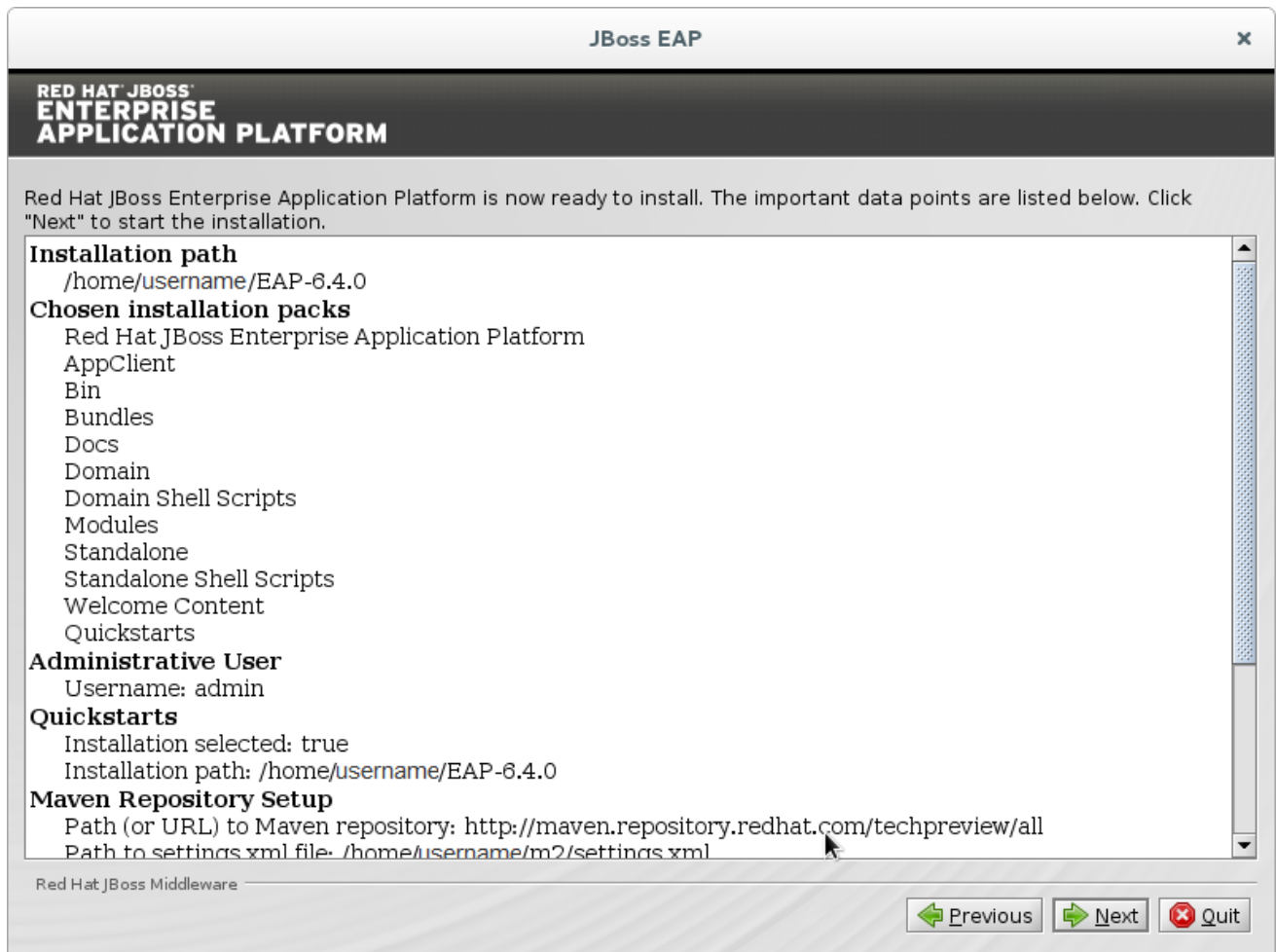
図A.11 JBoss EAP インストールプログラムランタイム環境の設定 - デフォルト



バグの報告

A.12. インストールコンポーネントを確認する

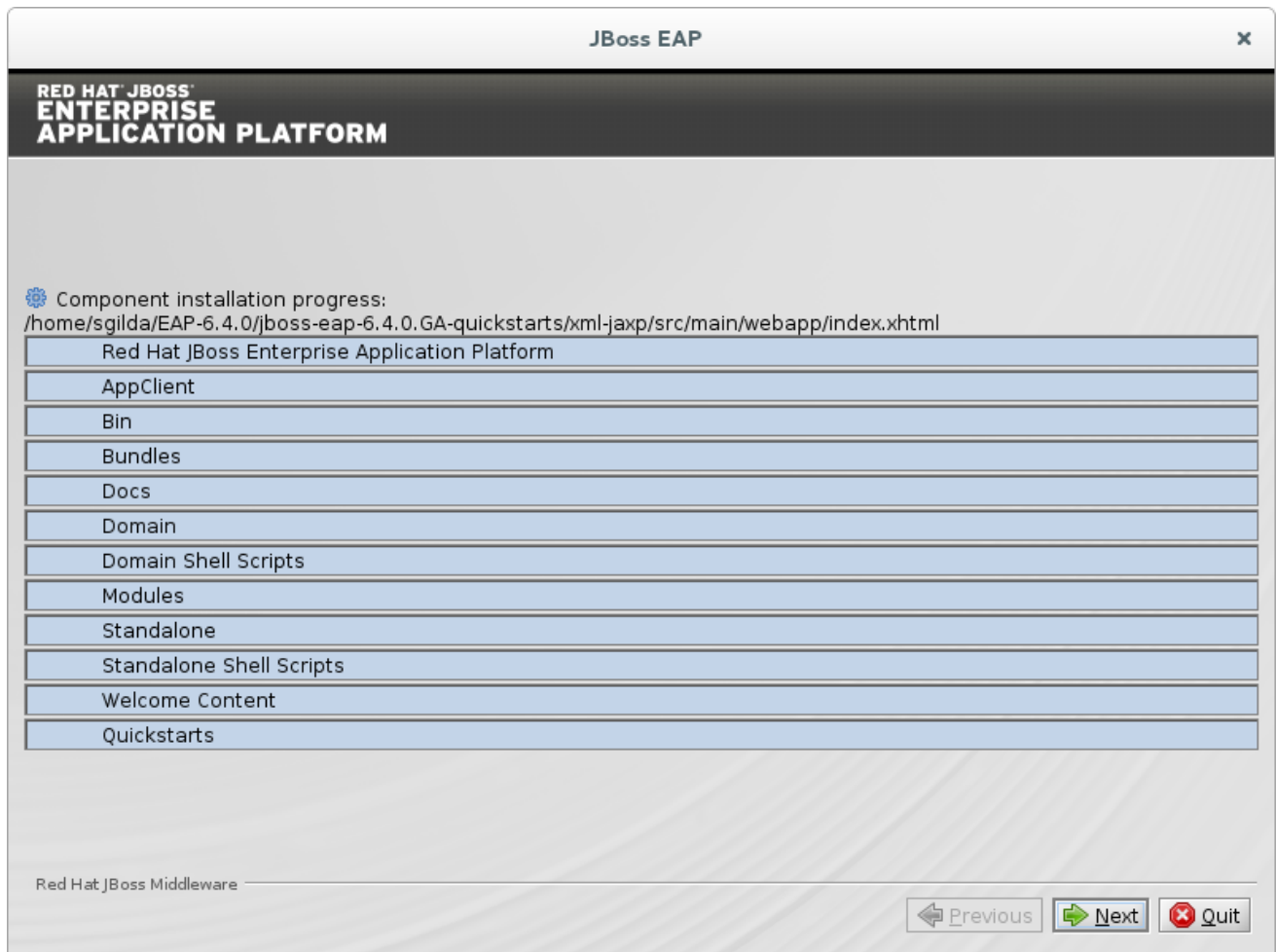
図A.12 JBoss EAP インストールプログラムで選択したコンポーネントを確認する



バグの報告

A.13. インストールの進捗

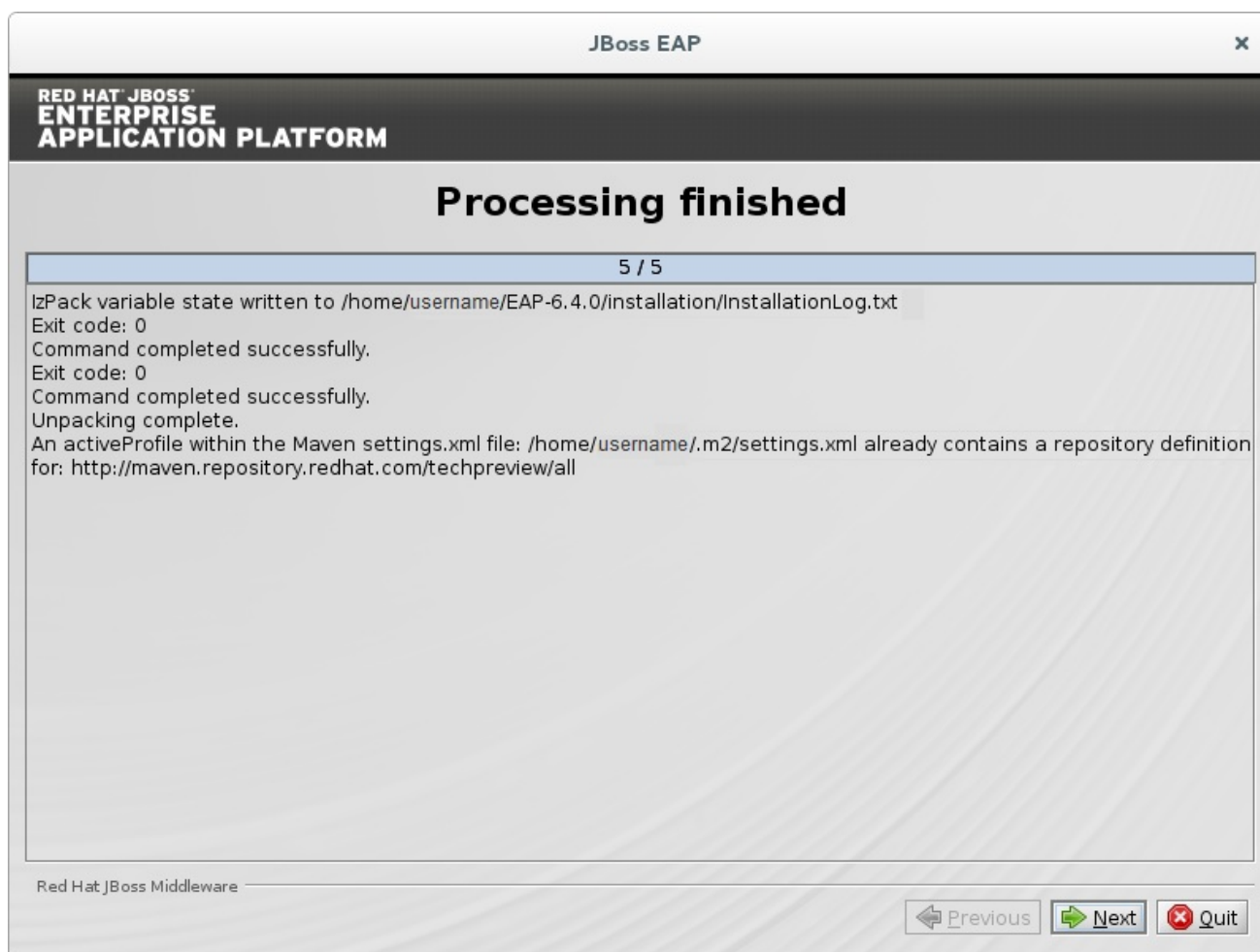
図A.13 JBoss EAP インストールプログラムコンポーネントのインストールの進捗



バグの報告

A.14. インストール処理が完了しました

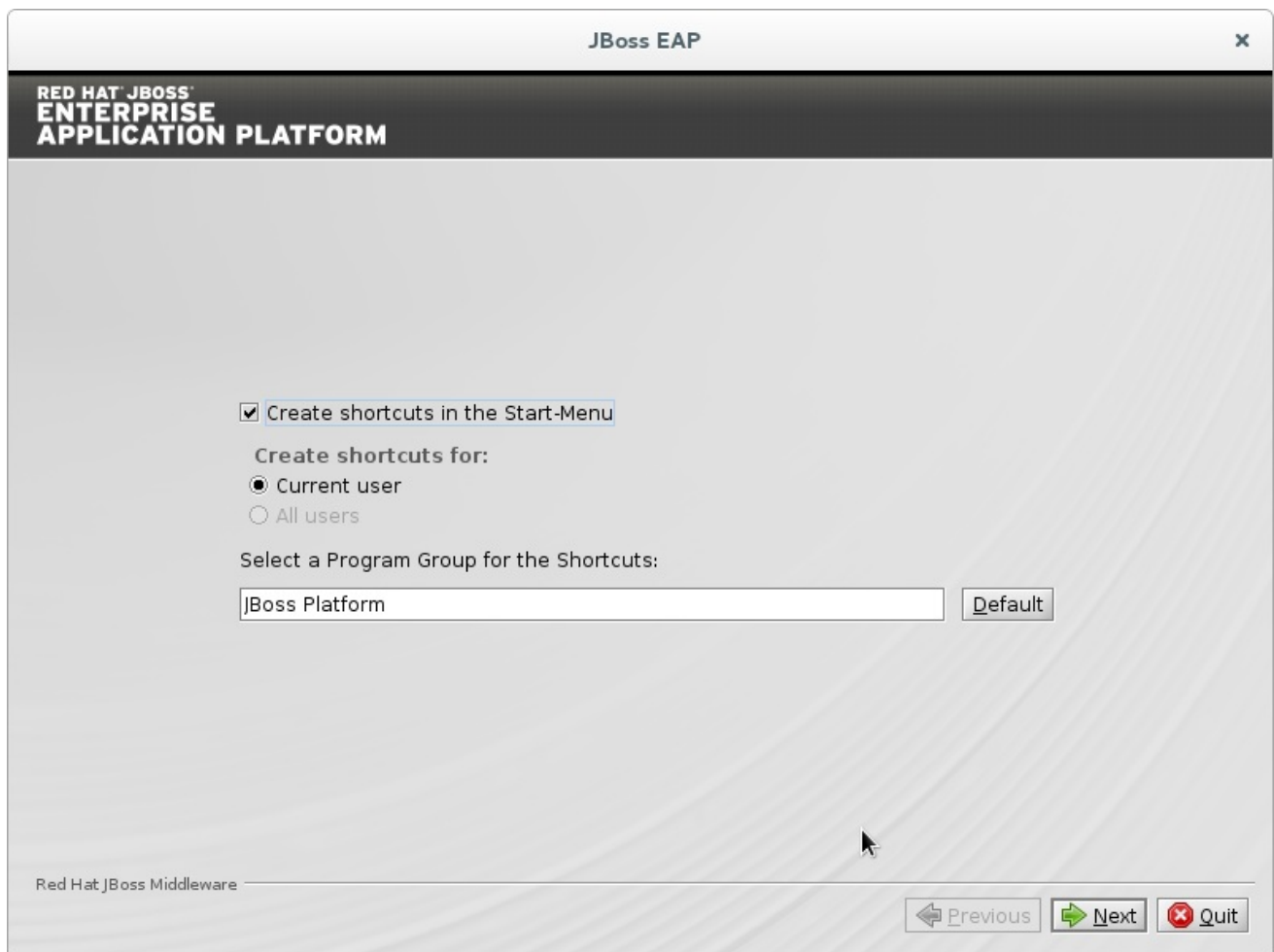
図A.14 JBoss EAP インストールプログラムの処理が終了しました



バグの報告

A.15. ショートカットを作成する

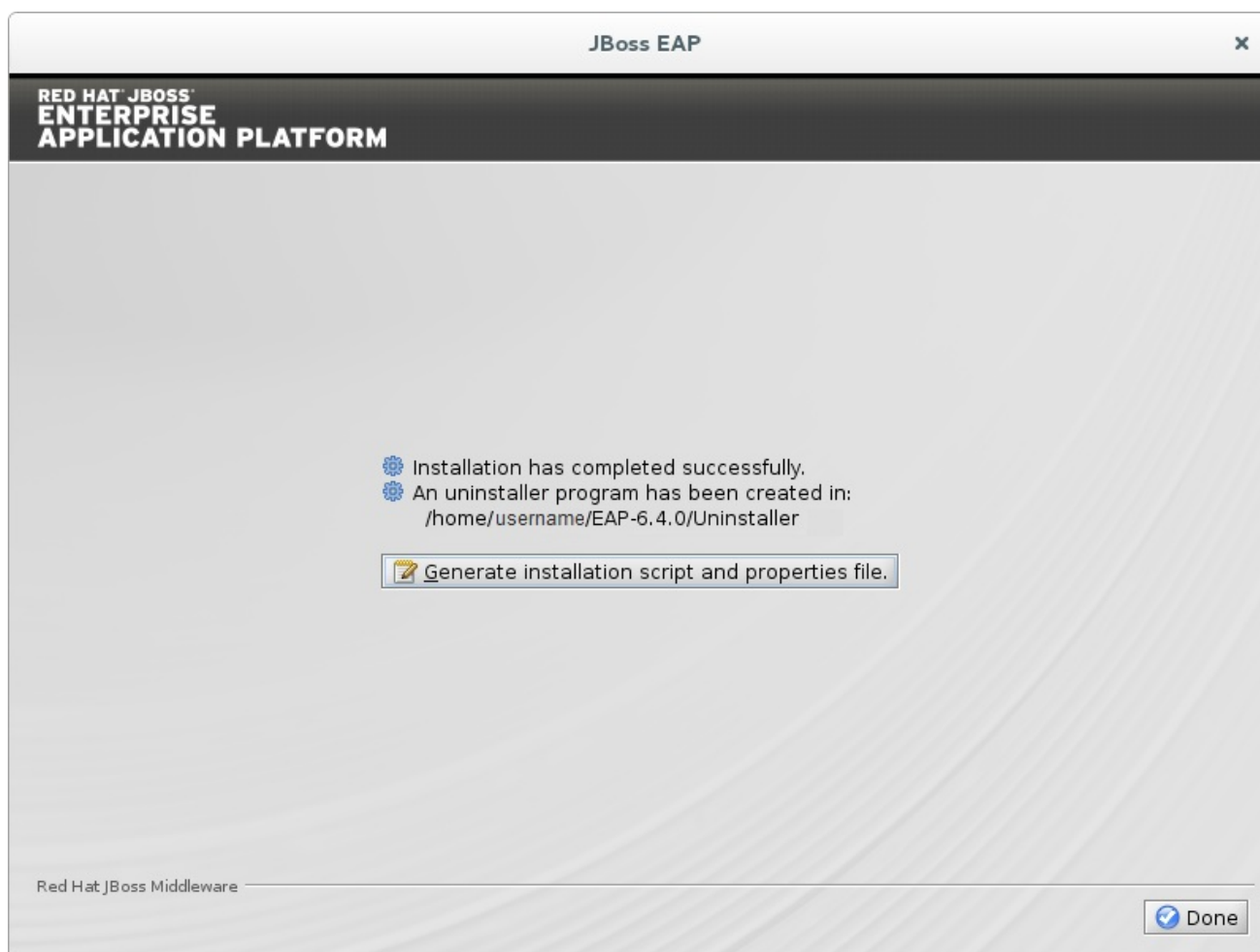
図A.15 JBoss EAP インストーラーによるショートカットの作成



バグの報告

A.16. インストールスクリプトを生成する

図A.16 JBoss EAP インストールプログラムはインストールスクリプトを生成します



[バグの報告](#)

付録B 改訂履歴

改訂 6.4.0-38

Thursday November 16 2017

Red Hat Customer Content Services

Red Hat JBoss Enterprise Application Platform 6.4 継続的リリース